# PHOTO ALBUM

## 2018 Joint-Congress on Rural Medicine in Tokyo

第67回 日本農村医学会・学術総会

67th Annual Meeting of Japanese Association of Rural Medicine (JARM)

第20回 国際農村医学会・学術総会

20<sup>th</sup> Congress of International Association of Rural Health and Medicine (IARM)

Schedule: October 10<sup>th</sup>~12<sup>th</sup>, 2018 日程: 2018年10月10日~12日

Place: TFT Bldg. 3-6-11 Ariake Koto-ku, Tokyo 135-0063 会場: TFTビル 〒135-0063 東京都江東区有明3-6-11



### Welcome to 2018 Joint Congress on Rural Medicine in Tokyo, Japan 第 20 回国際農村医学会学術集会

20<sup>th</sup> International Congress of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM)

Dear colleagues,



Shuzo Shintani, MD President, 2018 Joint Congress on Rural Medicine in Tokyo

It is our great honor and pleasure to invite you to attend the 20<sup>a</sup> International Congress of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM) to be jointly held with the 67<sup>a</sup> Annual Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine on 10-12 October 2018, in Tokyo, Japan. The theme of the congress is "Challenges to community-based rural medicine in aging societies with declining productive populations".

As you are aware, our congress every three years provides one of the most exciting and respected platforms by which we come together to share our

discoveries and ideas. We learn from one another. We create new relationships. And our work is enriched by this exchange. We return to our countries and hospitals with a renewed sense of purpose and enthusiasm for our work.

This congress aims to promote valuable international exchange and further progress in the field of rural medicine, and to enhance international collaborations across the world. It will be a great and exciting time for physicians, scientists, nurses and the professionals of other related fields to present their most recent research achievements and ideas, and share the knowledge. The scientific program will cover topics of almost all the branches of rural medicine, reflecting the latest developments in fundamental and clinic research in rural medicine. It is in every scientific program, poster session, symposium, and keynote lecture that helps you understand the rural medicine more and perform your work better.

Attendees will benefit from meeting and interacting with participating international specialists for refreshing knowledge base, research as well as clinical skills, and from opportunities for establishing long-term international collaborations. The value of this congress, which you will feel in a handshake with old friends and new colleagues, will last for months and years to come. We ensure you that the congress will be an influential event.

We hope to see you in Tokyo,

Sincerely yours,

September 10, 2018

Shuzo Shintani, MD

President, 20<sup>th</sup> Congress of the International Association of rural health and medicine (IARM) Secretary General of IARM

Shyo Shirtons

President, the Japanese Association of Rural Medicine (JARM)

Director, JA Toride Medical Center, Ibaraki 302-0022, Japan

E-mail: IARM@live.jp

## Welcome to 2018 Joint Congress on Rural Medicine in Tokyo, Japan 第 67 回日本農村医学会学術集会

67th Annual Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM)

#### 謹啓

このたび、第67回 日本農村医学会学術総会を平成30年(2018年)10月10日(水)-12日(金)の3日間、東京有明のTFTビル(東京ファッションタウンビル)において開催することになりました。学術総会開催にあたり、関係者の皆様に多大なご指導とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。本総会は第20回 国際農村医学会 学術総会(学会長:新谷周三)との合同で、「2018ジョイント・コングレス on Rural Medicine in 東京」として開催します。その為、本総会の参加者は、国際農村医学会の講演や演題にも自由にご参加いただけますし、口演には同時通訳を用意しましたので、日本語での議論も可能です。

日本農村医学会は、日本医学会における50番目の医学分科会として設立され、65年の歴史を有する学術団体です。日本の農村地域をはじめ地域社会における医療・保健・福祉を総合的に研究し実践する団体として、学会員は、全国の厚生連病院や大学病院、研究所などのスタッフで構成され、現在4,596名(医師4,461名、コ・メディカル等135名)を擁しております(http://www.jarm.jp).



羽田 明 千葉大学大学院 医学研究院 公衆衛生学教授 第67回 日本農村医学会 学術総会 学会長

今回の学会ではメインテーマを「高齢化・生産人口減少社会の中で地域医療 in the world:日本では首都圏、地方都市、中山間地のそれぞれにおいて」とし、「大都市圏・首都圏近郊の病院におい て」、「地方中核都市の病院において」、「中山間地の病院において」の3つのシンポジウムを中核として据えまし た、それぞれ厚生連病院を率いていらっしゃる先生方からわが国における地域の課題と展望を語っていただき、ご参 加の方々と共に今後の進むべき方向性などの活発な議論を期待したいと思います. 団塊の世代が 2025 年までに後期 高齢者になるまでの急を要する対応が求められるなど、世界一の高齢化の中での地域医療のあり方は、先頭を行くわ が国だけではなく世界中の国々に共通する課題であり、今回のジョイント・コングレスは極めて貴重な議論の機会に なると確信しております。わが国の医療制度の根幹である57年にわたる国民皆保険制度を維持するために、これま で地域医療を中核となって支えてきた厚生連病院の働きを全国の医療関係者に発信する場とも考えております。さら に特別講演として、千葉大学予防医学センターの近藤克則教授による「健康の社会的要因と農村医学-JAGESプロ ジェクトからの示唆ー」を企画しました. WHOが、社会格差、貧困、地域のつながりなどの社会要因が健康に多大 な影響を及ぼしていることは確たる事実であると宣言して以来、世界中でその実態解明とアクションが求められてい ます. わが国でも第二次健康日本 21 に大きく取り上げられました. 近藤教授はわが国の第一人者であり, 本学会で も実践につながる時宜を得たテーマと自負しております。また、厚労省主導の National Database (NDB)、国保デー タベース(KDB)など、レセプトデータ、特定健診データ等の膨大なデジタル情報(ビッグデータ)が入手可能とな り、公衆衛生行政、医療、福祉にその活用が求められるようになりました。そこで、東京医科歯科大学の伏見清秀教 授に教育講演として, 医療介護におけるビッグデータの活用に関してご講演をお願いしました.

このように本大会では、学術発表と意見交換を通して、情報共有と課題認識および今後の方向づけに関する有意義な議論の場としたいと願っております。皆様におかれましては、これまでと同様、現場での課題やご経験、研究をご発表いただくと伴に、積極的なご参加をよろしくお願いいたします。

謹白

2018年9月10日

第67回 日本農村医学会学術総会 学会長 一般社団法人 日本農村医学会 副理事長 千葉大学大学院医学研究院·公衆衛生学 教授

羽田 明(はたあきら)3

## Thank you for your participation to 20<sup>th</sup> IARM Congress in Tokyo

Dear all colleagues,

I am deeply grateful to you for participating in 2018 Tokyo IARM Congress, and on behalf of the delegates, I would like to extend my sincere congratulations for holding this very successful Congress.

It was our great pleasure to hold 20<sup>th</sup> Congress of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM) jointly with 67<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM), in Tokyo, Japan. The theme was "Challenges to community-based rural medicine in aging societies with declining productive populations".

During this congress, I considered how to protect rural medicine in this society while aging progressed in all the countries of the world including Japan in accordance with world colleagues. As we summarized it in Tokyo declaration, I think that it is necessary to return to the origin of International Association of Rural Health and Medicine (IARM) established in 1961.

As you know, our Congress has been held every 3 years. We gathered to share our discoveries and new ideas. We learned from one another, and created new relationships. It was a great and exciting time for physicians, scientists, and nurses to present their most recent researches and ideas, and to share knowledge. Many people connected with old friends and established new relations with new colleagues. The value of this Congress will last for many years to come.

Next Congress will be held in Hungary in 2020 and in Serbia in 2021. We look forward to seeing you again.

October 22, 2018

新谷周三(しんたに しゅうぞう) 第 20 回国際農村医学会 学術総会会長

Shuzo Shintani, MD

President, 20<sup>th</sup> Congress of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM) Director, JA Toride Medical Center, Ibaraki 302-0022, Japan

Shys Shirtons



## 第67回日本農村医学会学術総会開催のお礼

このたび、第67回日本農村医学会学術総会を2018年10月10日~12日の3日間にわたって、東京都江東区有明のTFTホールにて開催させていただきました。多数の皆様にご参加いただき、盛会裏に学会を終えることができましたことを厚く御礼申し上げます。

今学会は、日本農村医学会学術総会と国際農村医学会学術総会の合同開催で、国際色豊かな農村医学会となりました。日本農村医学会では、学会長講演・金井賞受賞講演・特別講演1・2、教育講演、シンポジウム1・2・3、一般演題327題、ランチョンセミナー18題が行われました。シンポジウムでは「高齢化・生産人口減少社会の中での地域医療」をテーマとし、「大都市圏・首都圏近郊」、「地方中核都市」、「中山間地」と大きく3つにわけ、今後の日本農村医学会が取り組むべき大きな課題について、討論を行っていただきました。国際農村医学会では、学会長講演、基調講演1~15、一般演題44題が行われ、メイン会場では同時通訳を介し、世界11か国からの参加者と活発な意見交換を行い、Rural Medicineをより世界的な視点で捉え考える良い機会となったと存じます。

学術総会運営におきましては、準備段階や開催期間中多々至らぬ点が あったことと存じますが、皆様のご理解・ご協力をいただきつつ、無事 に閉会できましたこと改めて厚く御礼申し上げます。

2018年10月19日

第67回日本農村医学会学術総会 学会長 千葉大学大学院医学研究院・公衆衛生学教授 日本農村医学会 副理事長 羽田 明(はた あきら)

## 第67回日本農村医学会学術総会 67th Annual Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM67)

## 第20回国際農村医学会学術総会

20th International Congress of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM20)



## 本農村医学会67

第67回日本農村医学会学術総会 学会長 羽田 明

President Akira Hata, M.D., Ph.D. 日本農村医学会 副理事長 千葉大学大学院医学研究院公衆衛生学 教授



第20回国際農村医学会学術総会

学会長 新谷 周三 President Shuzo Shintani, M.D., Ph.D. 日本農村医学会 理事長 JAとりで総合医療センター 院長



[Click here]



Conference website: Japanese Association of Rural Health and Medicine (JARM) and International Association of Rural Health and Medicine (IARM)

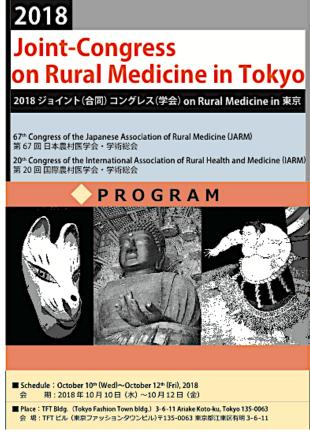
http://www.procomu.jp/jarm -iarm2018/

■学会ホームページ 日本農村医学会 国際農村医学会 http://www.procomu.jp /jarm-iarm2018/

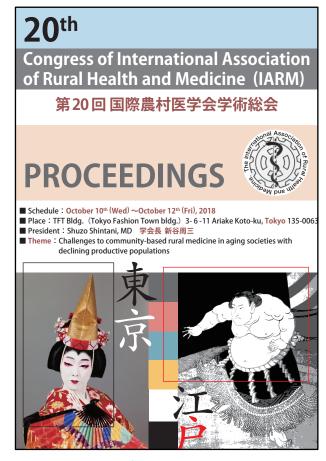




第67回日本農村医学会学術総会・公式ポスター



2018ジョイントコングレス合同プログラム







20th IARM Congress in Tokyo, official poster



# International Association of Rural Health & Medicine (IARM)

President – Prof. Hans-Joachim Hannich, Secretary General – Dr. Shuzo Shintani

#### Tokyo Declaration

## 東京宣言

October 12, 2018

#### ■はじめに

2018年10月10日から12日までの3日間、東京有明で第20回国際農村医学会(IARM)学術総会と第67回日本農村医学会(JARM)学術総会を、ジョイントの形で開催した。今回のメインテーマは「深刻化する高齢化問題への分析および対策」であった。現在、世界では人口過剰が問題となっているが、世帯当たりの出生数は所得が高い国ほど減少しており、先進国では高齢化が進み、人口は減少してきている。今後、グローバル化で国ごとの格差は減少すると考えられ、来世紀には全世界で人口が減少し、高齢化が進むことが考えられている。

とりわけ日本は、65歳以上の人口割合が 27.3% (2017年)という世界で最も高齢化が進行している国である。更に、日本国内でも農村地帯 (rural areas) の高齢化率は高く、より深刻で様々な問題を抱えている。日本において高齢化社会の問題を真剣に討論し対策を施すことは、これから高齢化を迎える世界の国々の良いモデルとなるため、本学会を今日、日本で開催することには大きな意味があった。

また、学会を通して、以下の問題点が明らかとなった。

- 1. 先進国では高齢化と人口減少が既に社会問題となっているが、どの国でも農村部では高齢者の 割合が高く、多くの高齢者や、発展途上国では児童が農業労働を担っている。
- 2. 労働人口が減少しているため、退職年齢を引き上げて労働力を確保する傾向にある。
- 3. 退職年齢を引き上げるためには、個々の労働能力を高い水準に保つ必要がある。
- 4. 高齢者のほとんどは、高血圧等の慢性疾患を持っている。
- 5. 高齢化が進んで大きな問題となってきたのは、認知症患者の増加である。
- 6. 高齢者の農作業時の事故や外傷は減少していない。
- 7. 報告された全ての国で、農村部の高齢者の健康状態は都市部より悪いことが示された。これは 農村部は所得が低いこと、教育水準が低いこと、医療機関までのインフラが整っていないこと などが関連している。
- 8. 農村部では認知症患者が医療機関を受診もせず、サービスも受けていない事が多い。

#### ■東京宣言

以上を踏まえ、以下の事項を東京宣言として本学会で採択した。

- 1. 高齢化社会の脅威を防止する上で最も重要なことは、高齢者が健康で生産的な人であり続けることである。
- 2. 高齢者が安全に労働に従事するため、高齢労働者の年齢や身体能力、精神状態を 医学的に分析し、その結果を労働環境上の諸要素と関連付けて検討し、対策を提 案する必要がある。
- 3. 労働安全衛生も老年医学的な観点から考え、高齢労働者に適する仕事を抽出し、 更に高齢労働者に適合する安全な労働環境を作り上げる。
- 4. 高齢労働者が良好な労働力となるためには、働く高齢者だけでなく、雇用者も教育やトレーニングを受け続ける必要があり、その基盤・体制を構築する。
- 5. 高齢農業労働者が安全に長い期間、農業に従事できるように農業環境整備を行う。
- 6. 世界中で問題となっている農村部の低所得に対して、農業労働者が必要とする保 障制度を提案して導入し、医療や介護サービスが受けられるように政府等に働き かける。
- 7. 農業労働者の負担を軽減することで、世界の児童労働者数を減らすように努力する。
- 8. 農村地域のインフラの整備は必要であるが、IT 等を用いてこれまでと異なった方法でサービスへアクセスする方法など、政府・民間企業を交えて多角的に対策を検討する。



# International Association of Rural Health & Medicine (IARM)

President - Prof. Hans-Joachim Hannich, Secretary General - Dr. Shuzo Shintani

#### Tokyo Declaration

October 12, 2018

#### ■ Introduction

We held the Joint Congress of the 20th International Association of Rural Health and Medicine (IARM) and the 67th Annual Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM) for three days from 10th to 12th October 2018 in Tokyo. The main theme of this congress was "Challenges to community-based rural medicine in aging societies with declining productive populations". Currently, overpopulation is one of the big problems all over the world, but the population in developed countries is now decreasing. Furthermore, in these countries the ratio of elderly people is becoming greater. The birth rate seems to be lower in the households with high income. Since globalization will spread all over the world and the income will be high even in the developing countries, disparity of each country may decrease and world population is thought to decrease in the next century. The problems of aging society will be serious around the world.

In particular, Japan has the highest aging population in the world, the percentage of people that are 65 years of age and older is 28.1% (2018). Furthermore, even in Japan, the aging rate of rural areas is much higher, and this causes many various problems in societies. It was of great significance to hold this congress to discuss the problems of aging society in Japan, and the policies and measures for the aging society must be a good model for the other countries which could face similar issues in the future.

Through this congress, the following problems were revealed.

- 1. In developed countries, aging and population declines have already become a social problem.
- 2. The proportion of elderly people in rural areas is high in developing countries as well as in the developed ones, and many elderly and children have to be responsible for agricultural labor in developing countries.
- 3. Today, the retirement age limit tends to be raised to secure labor because of decreasing working age population.
- 4. In order to raise the retirement age, it is necessary for elderly to keep the individual labor capacity at a high level.
- 5. Accident and trauma during agricultural work of the elderly have not decreased.
- 6. Most elderly people have at least one chronic disease such as hypertension.

- 7. The increase in the number of patients with dementia has recently become a major problem as aging progresses.
- 8. From the presentations in this congress, it was shown that health conditions of the elderly living in rural areas are worse than those in urban areas. This is related to rural areas with low income, insufficient educational standards, and inconvenience for receiving some medical service.
- 9. For as patients with dementia in the rural areas, many patients cannot visit medical institutions nor receive any social services.

#### ■ Tokyo Declaration

Based on the above problems, we have adopted the following matters in regards to the Tokyo Declaration at this congress.

- 1. The most important thing for preventing the threat in an aging society is that elderly people continue to be healthy and productive.
- 2. In order to make safe labor circumstances for elderly people, it is necessary to medically analyze physical abilities and mental condition of elderly workers. We should consider the results in connection with the factors in the working environment, and suggest some improvement plans.
- 3. Considering about the relation between occupational safety and health from the point of view of geriatrics, we should list up jobs which are suitable for elderly workers, and should also create safe working environments for them.
- 4. In order to be an effective and productive worker for elderly people, employers as well as elderly workers must continue to learn better education and training for jobs.
- 5. We should improve the agricultural environment in the rural areas so that aged farm workers can safely engage in agricultural work so longer.
- 6. For agricultural workers with low income in rural areas, we should suggest a guarantee system for the workers and urge national and local governments to provide long term care and medical services.
- 7. We should promote to reduce the burdens of agricultural workers, and this will be able to decrease the labor of children.
- 8. It is necessary to improve the infrastructure in rural areas by using not only conventional methods but also new devices such as IT or social network. For achievement of this, we should cooperate with private enterprises or government.

#### Signature



Prof. Hans-Joachim Hannich

President, International Association of Rural Health and Medicine (IARM), Germany



Dr. Shuzo Shintani

President, 20th Congress of International Association of Rural Health and Medicine (IARM) President of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM), Japan



Prof. Akira Hata

The 67th Japan Rural Medical Society Academic Association Chairman, Vice President of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM), Japan



Prof. Claudio Colosio

Vice President, International Association of Rural Health and Medicine (IARM), Italy



Prof. Peter Lundqvist

Vice President, International Association of Rural Health and Medicine (IARM), Sweden

Prof. Kyeong Soo Lee

Vice President, International Association of Rural Health and Medicine (IARM), Republic of Korea

Prof. Istvan Szilard

Department of Operational Medicine, WHO Collaborating Centre University of Pécs Medical School, Hungary

Prof. Petar Bulat

 $University \ of \ Belgrade \ Faculty \ of \ Medicine \ \& \ Serbian \ Institute \ of \ Occupational \ Health, \ Belgrade \ Serbia$ 

Dr. Shengli Niu

Senior Specialist on Occupational Health, International Labor Office (ILO), Switzerland

Dr. Ashok Vikhe Patil

Immediate Past President, International Association of Rural Health and Medicine (IARM), India

		2018 国際農村医学会・日本農村医学会 学術総会スケジュール
2018		Venue A(TFT ホール 500)
October		このセッションの英語発表は、全て同時通訳(質疑応答も)されますので、多くの方のご参加をお待ちしております
	9 a.m.	開会式(合同) 国際農村医学会 (IARM)・日本農村医学会 (JARM)
-	10 a.m.	会長講演 (JARM):羽田 明(千葉大学大学院医学研究院・公衆衛生学講座教授、日本農村医学会副理事長) ゲノム医学研究の臨床応用の現状と今後の展望
	11 a.m.	会長講演 (IARM): 新谷周三(茨城県厚生連 JAとりで総合医療センター院長、日本農村医学会理事長) 「日本の地域医療における神経疾患患者の在宅ケア: (1) 長期の生存を決定づける因子は何か?(2) 人工的栄養管理の有効性と倫理性について」
	12 a.m.	(昼休憩)
	13 p.m.	日本農村医学会 第67回通常総会・表彰式
10th (Wed)	14 p.m.	① Prof. Peter Lundqvist & Dr. Kerstin Nilsson (スウェーデン): Lund University, Division of Occupational and Environmental Medicine「農業に従事する高齢労働者の健康的かつ持続可能な労働環境:スウェーデンにおける考察」
Day 1	15 p.m.	② Dr. Dimitris Tsoukalas (ギリシア): President of the European Institute of Nutritional Medicine:E.I.Nu.M. 「世界の人口の高齢化、慢性疾患および修正可能な代謝リスク因子の影響」
	16 p.m.	特別講演 (JARM):近藤克則(千葉大学 予防医学センター教授) 「健康の社会的要因と農村医学 - JAGESプロジェクトからの示唆」
	17 p.m.	③ Dr. René Thyrian (ドイツ) : Group Leader, German Center for Neurodegenerative Diseases (DZNE) 「ドイツの地域における認知症ケアの提供 —人口構造の変化による影響とその対策—」
	18 p.m.	④ Prof. NYGÅRD (フィンランド) : Faculty of Social Sciences Health Sciences, University of Tampere 「高齢化と持続可能な雇用」
	9 a.m.	⑤ Prof. Claudio Colosio (イタリア): Department of Health Sciences of the University of Milan 「労働人口の高齢化:労働衛生と安全、職業病の診断と予防に対する新しい挑戦」
	10 a.m.	⑥ Prof. Petar Bulat (セルビア):University of Belgrade Faculty of Medicine 「高齢化するセルビアの地方住民:必要とされる医療とその解決法の検討」
	11 a.m.	⑦ Dr. Shengli Niu (ILO): Senior Specialist on Occupational Health, International Labour Office (ILO) 「農業における職業病のリスクと疾病の予防」
	12 a.m.	(昼休憩)
11th (Thu)	13 p.m.	国際農村医学会(IARM)・理事会/総会
		Prof. Hans-Joachim Hannich: 国際農村医学会 (IARM)・会長  8 Dr. Joachim Breuer: 国際社会保障協会 (ISSA)・会長
Day 2	15 p.m.	「農村地域における社会保障の課題に対するISSA(国際社会保障協会)の対応策」
	16 p.m.	⑨ Dr Istvan Szilard (ハンガリー): Department of Operational Medicine, University of Pécs Medical School 「ハンガリーの高齢化 ーその実態と健康・社会政策における課題や努力 (endowers)」
	17 p.m.	⑩ Dr. Zoltan Katz(ハンガリー): Assistant professor, University of Pécs, Medical School 「ハンガリーの高齢化するロマ少数民族 ―医療および社会的ケアシステムの課題、現実、今後の展望」
	18 p.m. 19 p.m.	会員懇親会 (TOCセンター:TFTホールから徒歩5分)
	15 μ.π.	云貝芯机云(「〇〇ピング・・「「「小一ルルウルグリ)
	9 a.m.	① Dr Kyeong Soo Lee(韓国): Department of Preventive Medicine, Yeungnam Univ. College of Medicine 「韓国における健康保険システム(高齢者に対する長期の介護保険システムを含む)の現在と未来の展望について」
		① Dr Moo-Sik Lee (韓国): Department of Preventive Medicine, College of Medicine, Konyang University
		「韓国における高齢認知症患者への対応と対策一認知症に対する国家戦略および行動計画」
		⑬ Prof. Eunok Park (韓国): College of Nursing, Jeju National University 「韓国における訪問看護 (home Visit Nursing Care) の現状」
12th (Fri)	12 a.m.	「韓国における訪問有護 (nome visit nursing care) の現状」 (昼休憩)
Day 3	13 p.m.	教育講演 (JARM):伏見清秀 (東京医科歯科大学大学院 医療政策情報学分野教授) 「超高齢化社会に対応するための医療介護Big Dataの活用」
-	14 p.m.	① Prof. Nanako Tamiya (日本): Department of Health Services Research, University of Tsukuba 「戦後日本の医療制度の概要および超高齢化社会が到来する日本における医療・長期介護政策の展望」
-	15 p.m.	⑤ Dr. Ashok Vikhe Patil (インド): Immediate Past President of IARM
	16 p.m.	「地方の健康と医療に関するグローハル課題―特に地方の高齢者について」 14 閉会式、表彰式、東京宣言(合同)

		2018 IARM/JARM Congress Schedule
2018		Venue A (TFT Hall 500)
October		In Venue A, simultaneous translations are available for the Japanese audience in all English presentations
10th (Wed) Day 1	9 a.m.	Joint Opening Ceremony International Association of Rural Health and Medicine (IARM) and Japanese Association of Rural Medicine (JARM)
	10 a.m.	President lecture of JARM (Prof. Akira Hata): Current State and Future Prospects of Clinical Application of Genome Medical Research
	11 a.m.	President lecture of IARM (Dr Shuzo Shintani):  Home health care in patients with neurologic impairments in rural areas in Japan:  (1) what is the long-term survival-determining factor ? (2) efficacy and ethics of artificial nutrition
	12 a.m.	(Lunch Break)
	13 p.m.	General Assembly of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM)
	14 p.m.	① Prof. Peter Lundqvist & Dr. Kerstin Nilsson (Sweden): Healthy and sustainable workplaces for older workers in agriculture - A Swedish perspective
	15 p.m.	② Dr. Dimitris Tsoukalas (Greece): World aging population, chronic diseases and impact of modifiable-metabolic risk factors
	16 p.m.	Special Lecture of JARM (Prof. Katsunori Kondo): Social Determinants of Health and Rural Medicine—Suggestions from Japan Gerontological Evaluation Study
	17 p.m.	③ Dr. René Thyrian (Germany): Providing Dementia Care in a rural region in Germany – consequences of demographic change and concepts to encounter these
	18 p.m.	
	9 a.m.	⑤ Prof. Claudio Colosio (Italy): Workforce ageing an emerging challenge for Occupational Health and Safety and the Diagnosis and Prevention of Occupational Diseases
	10 a.m.	⑥ Prof. Petar Bulat (Serbia): Ageing Serbian rural population: defining the health care needs and searching for solutions
	11 a.m.	⑦ Dr. Shengli Niu (ILO) : Prevention of occupational risks and diseases in agriculture
	12 a.m.	(Lunch Break)
11th /Thu)	13 p.m. 14 p.m.	Board Meeting and General Assembly (IARM)  Prof. Dr. Hans-Joachim Hannich: President of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM)
Day 2	15 p.m.	B. Joachim Breuer: President of the International Social Security Association (ISSA)  Answers of the ISSA to challenges for social security in rural areas
	16 p.m.	Or Istvan Szilard (Hungary) :  The ageing population in Hungary – facts, challenges and endowers in the health and social policy
	17 p.m.	Dr. Zoltan Katz (Hungary):  Ageing Roma ethnic minority population in Hungary – Challenges, realities, perspectives for the health and social care system
	18 p.m. 19 p.m.	Social gathering party at the TOC (Tokyo wholesale center)
	13 μ.π.	Coolar gathering party at the 100 (10kyo wholcoale conter)
12th (Fri) Day 3	9 a.m.	① Dr Kyeong Soo Lee (South Korea):  Current situation and future prospects of South Korea health insurance systems including the long-term care health insurance for aging people
		12 Dr Moo-Sik Lee (South Korea): Preparation and Measures for Elderly with Dementia in Korea; Focus on National Strategies and Action Plan against Dementia
		① Prof. Eunok Park (South Korea): Current state of home visit nursing care in South Korea
	12 a.m.	(Lunch Break)
	13 p.m.	Educational Lecture of JARM (Prof. Kiyohide Fushimi):
	14 p.m.	Utilization of healthcare big data to respond to a super aging society  (A) Prof. Nanako Tamiya (Japan):  Overview of the post-war Japanese medical care system and prospects of medical and long-term care policies in the advent of ultra-aging society
	15 p.m.	⑤ Dr. Ashok Vikhe Patil (India):
		Global challenges to Rural Health and Medicine, with special reference to the Elderly in Rural areas
	16 p.m.	Joint Closing and Awards Ceremony of IARM and JARM

#### 2018 Congress Schedule

#### Venue A(会場) TFT Hall 500

Day 1: October 10 (Wed.) 学会 1 日目: 10 月 10 日 (水)

In Venue A, simultaneous translations are available for the Japanese audience in all English presentations.

このセッションの英語発表は、全て同時通訳(質疑応答も)されますので、多くの方のご参加をお待ちしております

#### 9:00~9:55 開会式(合同) Opening Ceremony (Joint)

#### 10:00~10:55 第 67 回日本農村医学会学術総会(会長講演) President lecture of JARM

「ゲノム医学研究の臨床応用の現状と今後の展望」



Current State and Future Prospects of Clinical Application of Genome Medical Research

座長:青木一雄(琉球大学大学院医学研究科・衛生学/公衆衛生学講座教授)

Chairman: Prof. Kazuo Aoki, Public Health and Hygiene, Faculty of Medicine, University of the Ryukyus 演者:羽田 明(千葉大学大学院医学研究院・公衆衛生学講座教授、日本農村医学会副理事長) Speaker: Prof. Akira Hata, Dept. of Public Health, Chiba University Graduate School of Medicine

#### 11:00~12:00 President Lecture (20th Congress of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM)

Home health care in patients with neurologic impairments in rural areas in Japan: (1) what is the long-term survival-determining factor ? (2) Efficacy and ethics of artificial nutrition in the home health care

「日本の地域医療における神経疾患患者の在宅ケア: (1) 長期の生存を決定づける因子は何か? (2) 人工的栄養管理の有効性と倫理性について」



Chairman: Dr. Tomihiro Hayakawa(早川富博)Director, Asuke Hospital, Aichi, Japan(愛知県厚生連 足助病院院長)

**Speaker:** Dr. Shuzo Shintani (新谷周三) Director, JA Toride Medical Center, President of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM), Japan(茨城県厚生連 JA とりで総合医療センター院長、日本農村医学会理事長)

#### 12:00~13:00 Lunch Break(昼休憩)

#### 13:00~13:55 日本農村医学会第 67 回通常総会・表彰式 General Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM)

#### 14:00~14:55 Keynote Lecture:IARM ① (Sweden、スウェーデン)

[Healthy and sustainable workplaces for older workers in agriculture - A Swedish perspective]

「農業に従事する高齢労働者の健康的かつ持続可能な労働環境:スウェーデンにおける考察」





**Chairman**: Prof. Kuninori Shiwaku (塩飽邦憲) Specially-appointed professor of Shimane University, Faculty of Medicine, Shimane, Japan(島根大学医学部 特任教授)

**Speaker**: Prof. Peter Lundqvist <sup>2</sup>, Dr. Kerstin Nilsson<sup>1, 2</sup>

- <sup>1</sup> Lund University, Division of Occupational and Environmental Medicine, Lund, Sweden
- <sup>2</sup> Swedish University of Agricultural Sciences, Department of Work Science, Business Economic & Environmental Psychology, Alnarp, Sweden

#### 15:00~15:55 Keynote Lecture: IARM ② (Greece ギリシア)

「World aging population, chronic diseases and impact of modifiable-metabolic risk factors」 「世界の人口の高齢化、慢性疾患および修正可能な代謝リスク因子の影響」



Chairman: Dr. Masanobu Tatsumi(立身政信)The association of preventive medicine of Iwate Prefecture, Iwate, Japan(岩手県予防医学協会 產業保健支援部長)

Speaker: Dr. Dimitris Tsoukalas (President of the European Institute of Nutritional Medicine: E.I.Nu.M.)

#### 16:00~16:55 第 67 回日本農村医学会学術総会(特別講演 1) Special Lecture 1 of JARM

「健康の社会的要因と農村医学 - JAGES プロジェクトからの示唆」



「Social Determinants of Health and Rural Medicine—Suggestions from Japan Gerontological Evaluation Study」

座長:羽田 明(千葉大学大学院医学研究院 公衆衛生学講座教授)

Chairman: Prof. Akira Hata, Dept. of Public Health, Chiba University Graduate School of Medicine 演者: 近藤克則(千葉大学 予防医学センター教授/国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター老年学評価研究部長)

Speaker: Prof. Katsunori Kondo, Center of Preventive Medical Sciences, Chiba University

#### 17:00~17:55 Keynote Lecture:IARM ③(Germany ドイツ)

Providing Dementia Care in a rural region in Germany – consequences of demographic change and concepts to encounter these J

「ドイツの地域における認知症ケアの提供 ―人口構造の変化による影響とその対策―」

**Chairman:** Dr. Hiroyuki Tomimitsu(富滿弘之) Vice Director, JA Toride Medical Center, Ibaraki, Japan(茨城県厚生連 JA とりで総合医療センター副院長)

**Speaker:** Dr. René Thyrian (Group Leader, German Center for Neurodegenerative Diseases (DZNE), DZNE Rostock/ Greifswald, Germany)

#### 18:00~19:00 Keynote Lecture:IARM ④ (Finland) フィンランド



「Aging and sustainable employment」「高齢化と持続可能な雇用」

Chairman: Dr. Yoshito Iesaka(家坂義人)Tuchiura Kyodo General Hospital, Ibaraki, Japan(茨城県厚生連 土浦協同病院)

Speaker: Prof. Clas-Håkan Nygård (Faculty of Social Sciences Health Sciences, University of Tampere,

#### Venue A (会場) TFT Hall 500

Day 2: October 11 (Thu.) 学会 2 日目: 10 月 11 日 (木)

In Venue A, simultaneous translations are available for the Japanese audience in all English presentations.

このセッションの英語発表も、全て同時通訳(質疑応答も)されますので、多くの方のご参加をお待ちしております

#### 9:00~9:55 Keynote Lecture: ⑤(Italy) イタリア

Workforce ageing an emerging challenge for Occupational Health and Safety and the Diagnosis and Prevention of Occupational Diseases



「労働人口の高齢化:労働衛生と安全、職業病の診断と予防に対する新しい挑戦」

Chairman: Dr. Takeshi Momotsu(百都 健) Honorary Director, Sado General Hospital, Niigata, Japan (新潟県厚生連 佐渡総合病院名誉院長)

**Speaker**: Prof. Claudio Colosio (Department of Health Sciences of the University of Milan, and International Centre for Rural Health of the S. Paolo Hospital of Milano, Italy)

#### 10:00~10:55 Keynote Lecture:⑥(Serbia)セルビア



「Ageing Serbian rural population: defining the health care needs and searching for solutions」 「高齢化するセルビアの地方住民:必要とされる医療とその解決法の検討」

Chairman: Dr. Naohito Yamamoto(山本直人)Director, Kainan Hospital, Aichi, Japan(愛知県厚生連海南病院院長)

**Speaker**: Prof. Petar Bulat (University of Belgrade Faculty of Medicine & Serbian Institute of Occupational Health, Belgrade Serbia)

#### 11:00~12:00 Keynote Lecture∶⑦(ILO, Switzerland)国際労働機関、スイス

[Prevention of occupational risks and diseases in agriculture]

「農業における職業病のリスクと疾病の予防」



Chairman: Dr. Satoshi Inaba (稲葉 聡) Engaru Kousei Hospital, Hokkaido, Japan (北海道厚生連 遠軽厚生病院)

**Speaker:** Dr. Shengli Niu (Senior Specialist on Occupational Health, International Labour Office (ILO), Geneva, Switzerland)

#### 12:00~13:00 Lunch break(昼休憩)

#### 13:00~14:55 Board Meeting & General Assembly of the International Association of rural health and medicine (IARM)

国際農村医学会、理事会・総会



Prof. Dr. Hans-Joachim Hannich, President of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM), University of Greifswald, Institute for Medical Psychology, GERMANY 本学会は、農村医学ならびに地域医療/地域保健に職業として携わる人たちの自主独立の組織であり、WHO、ILO、FAO、UNESCO や関連 NGO などと協力しながら「21 世紀にすべての人に健康を」とする WHO が掲げる目的を支持しています。

#### 15:00~15:55 Keynote Lecture:⑧ International Social Security Association (ISSA) 国際社会保障協会



Answers of the ISSA to challenges for social security in rural areas

「農村地域における社会保障の課題に対する ISSA(国際社会保障協会)の対応策」

**Chairman:** Dr. kohji Suzuki(鈴木康司)JA Toride Medical Center, Ibaraki, Japan(茨城県厚生連 JA とりで総合医療センター)

Speaker: Dr. Joachim Breuer, President of the International Social Security Association (ISSA),

German Social Accident Insurance (DGUV), Berlin, Germany

#### 16:00~16:55 Keynote Lecture:⑨(Hungary)ハンガリー



「The ageing population in Hungary – facts, challenges and endowers in the health and social policy」 「ハンガリーの高齢化 ーその実態と健康・社会政策における課題や努力(endowers)」

Chairman: Dr. Satoshi Izawa(伊澤 敏) Director, Saku General Hospital, Nagano, Japan(長野県厚生連 佐久総合病院統括院長)

**Speaker:** Prof. Istvan Szilard (Department of Operational Medicine – WHO Collaborating Centre University of Pécs Medical School, Hungary)

#### 17:00~18:00 Keynote Lecture:⑩(Hungary)ハンガリー

Ageing Roma ethnic minority population in Hungary – Challenges, realities, perspectives for the health and social care system.

「ハンガリーの高齢化するロマ少数民族 —医療および社会的ケアシステムの課題、現実、今後の展望」 **Chairman**: Dr. Kazuo Sumimoto(住元一夫) Director, Yoshida General Hospital, Hiroshima, Japan (広島県厚生連 吉田総合病院院長)

**Speaker**: Dr. Zoltan Katz (Assistant professor, University of Pécs, Medical School (UP-MS), Department of Operational Medicine, Chair of Migration Health, Pécs, Hungary)

19:00~21:00 会員懇親会(TOC ビル)Social gathering party at the TOC (Tokyo wholesale center)

#### Venue A (会場) TFT Hall 500

Day 3: October 12 (Fri.) 学会 3 日目: 10 月 12 日 (金)

In Venue A, simultaneous translations are available for the Japanese audience in all English presentations.

このセッションの英語発表も、全て同時通訳(質疑応答も)されますので、多くの方のご参加をお待ちしています

## 9:00~12:00 Symposium for the future prospects in progressive aging societies in South Korea (South Korea) 韓国シンポジウム:韓国において進行する高齢化の中で将来の展望

#### Chairman:

- (1) Dr. Yasuhiro Togawa(十川康弘), Director, Kamitsuga General Hospital, Tochigi, Japan(上都賀厚生連 上都賀総合病院院長)
- (2) Mr. Eiji Ooura (大浦栄次), Kouseiren of Toyama Prefecture, Toyama, Japan (富山県厚生連 健康福祉課健康福祉アドバイザー)



Current situation and future prospects of South Korea health insurance systems including the long-term care health insurance for aging people.

「韓国における健康保険システム(高齢者に対する長期の介護保険システムを含む)の現在と未来の 展望について

**Keynote Speaker** : Kyeong Soo Lee, MD, PhD. (Vice-president of IARM, Department of Preventive Medicine, Yeungnam Univ. College of Medicine, Daegu, Republic of Korea)

Freparation and Measures for Elderly with Dementia in Korea; Focus on National Strategies and Action Plan against Dementia

「韓国における高齢認知症患者への対応と対策ー認知症に対する国家戦略および行動計画」

**Keynote Speaker** : Moo-Sik Lee MD, PhD (Department of Preventive Medicine, College of Medicine, Konyang University, Republic of Korea)

Current state of home visit nursing care in South Korea

「韓国における訪問看護 (home Visit Nursing Care) の現状」

Keynote Speaker(1): Prof. Eunok Park (College of Nursing, Jeju National University, Republic of Korea)

#### 12:00~13:00 Lunch break(昼休憩)

#### 13:00~13:55 第 67 回日本農村医学会学術総会(教育講演) Educational Lecture of JARM

「超高齢化社会に対応するための医療介護 Big Data の活用」

「Utilization of healthcare big data to respond to a super aging society」



座長:新谷周三(茨城県厚生連 JA とりで総合医療センター院長、日本農村医学会理事長)

**Chairman:** Dr. Shuzo Shintani, Director, JA Toride Medical Center, President of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM), Japan

演者:伏見清秀(東京医科歯科大学大学院 医療政策情報学分野教授)

Speaker: Kiyohide Fushimi, Prof. of Health Policy and Informatics Section, Tokyo Medical and Dental University Graduate School

#### 14:00~15:00 Keynote Lecture: ④ (Japan) 日本

「Overview of the post-war Japanese medical care system and prospects of medical and long-term care policies in the advent of ultra-aging society」



「戦後日本の医療制度の概要および超高齢化社会が到来する日本における医療・長期介護政策の展望」 Chairman: Dr. Akira Yoshikawa(吉川 明)Honorary Director, Nagaoka Central General Hospital, Niigata, Japan(新潟県厚生連 長岡中央綜合病院名誉院長)

**Speaker:** Prof. Nanako Tamiya (Department of Health Services Research, University of Tsukuba, Faculty of Medicine, Health Services Research & Development Center)

15:00~15:55 Keynote Lecture:⑸ (India) インド



「Global challenges to Rural Health and Medicine, with special reference to the Elderly in Rural areas」 「地方の健康と医療に関するグローバル課題―特に地方の高齢者について」

**Chairman:** Dr. Yoshiaki Somekawa (染川可明) Vice Director, JA Toride Medical Center, Ibaraki, Japan (茨城県厚生連 JA とりで総合医療センター副院長)

**Speaker:** Ashok Vikhe Patil (Executive Chairman, Pravara Rural Education Society, DIST-AHMEDNAGAR, Immediate Past President of International Association of Rural Health and

Medicine (IARM))

#### 16:00~17:00 閉会式、表彰式、東京宣言(合同) Closing and Awards Ceremony (Joint)

2018 東京宣言(合同学会:第 67 回日本農村医学会学術総会・第 20 回国際農村医学会学術総会) 2018 Tokyo Declaration: Joint Congress of 20<sup>th</sup> Congress of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM) and 67<sup>th</sup> Annual Meeting of Japanese Association of Rural Health and Medicine (JARM)

会場: TFT ホール 300 (Venue B)

学会 1 日目 (Day 1): 10 月 10 日 (水)、October 10 (Wed.)

#### 14:00~15:00 特別講演 2, Special Lecture 2 of JARM



「腎臓病保存療法 43年. ようやく明るさが見えてきた」

「Conservative kidney management for 43 years. We are near daylight」

**Chairman**: Dr. Taihei Imai(今井泰平)JA Toride Medical Center, Ibaraki, Japan(茨城県厚生連 JA とりで総合医療センター)

Speaker: 椎貝達夫(椎貝クリニック院長) Dr. Tatsuo Shiigai, Director of Shiigai Clinic

会場: TFT ホール 300 (Venue B)

学会 2 日目 (Day 2): 10 月 11 日 (木)、October 11 (Thu.)

#### ■第67回日本農村医学会・学術総会 シンポジウム

「高齢化・生産人口減少社会の中での地域医療 in the world:日本では首都圏、地方都市、中山間地のそれぞれにおいて」

#### 9:00~11:55 シンポジウム1:大都市圏・首都圏近郊の病院において

#### ■座長

- ①前原和平 (福島県厚生連 白河厚生総合病院 院長)
- ②高野靖悟 (神奈川県厚生連 相模原協同病院 院長)

#### ■シンポジスト

- ①**富滿弘之**(茨城県厚生連 JAとりで総合医療センター 副院長)
- ②浦田士郎(愛知県厚生連 安城更生病院 院長)
- ③狩野吉康(北海道厚生連 札幌厚生病院 院長)



富滿弘之副院長



浦田士郎院長



狩野吉康院長

#### 15:00~18:00 シンポジウム2:地方中核都市の病院において

#### ■座長

- ①菊池英明(北海道厚生連 带広厚生病院 院長)
- ②馬場良和(山口県厚生連 周東総合病院 院長)

#### ■シンポジスト

- ①齊藤 研(秋田県厚生連 平鹿総合病院 院長)
- ②十川康弘(上都賀厚生連 上都賀総合病院 院長)
- ③佐藤賢治(新潟県厚生連 佐渡総合病院 院長)



齊藤 研院長



十川康弘院長



佐藤賢治院長

会場: TFT ホール 300 (Venue B)

学会3日目 (Day 3):10月12日(金)、October 12 (Fri.)

#### 9:00~11:55 シンポジウム3:中山間地の病院において

#### ■座長

- ①社浦康三(長野県厚生連 理事長)
- ②森 拓也(三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院 院長)

#### ■シンポジスト

- ①早川富博(愛知県厚生連 足助病院 院長)
- ②矢澤正信(長野県厚生連 富士見高原病院 統括院長)
- ③住元一夫(広島県厚生連 吉田総合病院 院長)



早川富博院長



矢澤正信院長



住元一夫院長

## 20<sup>th</sup> Congress of International Association of Rural Health and Medicine 第 20 回 国際農村医学会・学術総会プログラム

## Program: Oral Session

Day 1: October 10(Wed.)学会 1 日目: 10 月 10 日(水) Venue B(会場) TFT Hall 300

#### October 10, 10月10日, 10:00am - 10:32am

Chairman: Atsushi Ueda(上田 厚)、Director, East Asia Health Promotion Network Center (東アジアヘルスプロモーションネットワークセンター センター長)

**©-1:** Cost of inpatients with foot problems covered by health insurance in Japan and measures against long hospital stay

Jumpei Wato and Shinya Kashiwagi. Department of Plastic and Aesthetic Surgery, Kitasato University School of Medicine, Japan

■ **O-2:** Confronting the Crisis in Medical Education ~ ICARE: Five measures to support young physicians ~

SungHo(Narihiro) Chang(Chou), Aritaka Matsuyama, Chieko Benitani, Yuko Nakajima, Youichi Koizumi, Atsuhiro Matsuno, Jun Tsuyuzaki, Hideaki Sato, Kentaro Shimada, Takayuki Eizawa, Ryuichi Kai, Kenichi Ito, Kazuki Yochioka and Gotaro Kurasawa. Department of Internal medicine, Asama-Nanroku KOMORO Medical Center, Japan

■ **0-3:** A novel strategy for gastric cancer screening using a mobile van service equipped with trans-nasal endoscopy

Seiji Adachi, Eri Takada, Koki Obara, Yohei Horibe, Tomohiko Ohno, Midori Iwama, Osamu Yamauchi, Koshiro Saito, Shiki Yasue, Yuhei Kojima, Daisaku Hata, Satomi Nagaya, Yumiko Hara, Chizuru Hori, Nao Tsuji and Mayuko Kohno. Gihoku Kosei Hospital, Japan

■O-4: Emergency medical service in Komono, Japan Makoto Miki, Masuo Oohashi and Takafumi Kanazu. Komono kousei hospital, Japan

#### October 10, 10月10日, 10:35am - 11:15am

Chairman: Kenji Kikuchi(菊地顕次)、Honorary Director, Yuri Kumiai General Hospital (由利組合総合病院 名誉院長)

- **O-5:** Elderly patients with proximal femoral fracture who return to living at home: comparison of acute care and rehabilitation (kaifukuki) hospitals Koji Suzuki, JA Toride Medical Center, Japan
- **O-6:** A new scoring model including bladder neck involvement for recurrence in patients with non-muscle-invasive bladder cancer

Naoko Kawamura, Motohiro Fujiwara and Testuo Okuno. JA Toride Medical Center, Japan

- **■0-7:** AYURVED FOR CANCER IN RURALAREAS: A HOLISTIC APPROACH SUKUMAR SARDESHMUKH, BHARATIYA SANSKRITI DARSHAN TRUST'S INTEGRATED CANCER TREATMENT AND RESEARCH CENTRE, WAGHOLI, PUNE, India
- **■0-8**: Empirical Study of homelessness and rapes in destitute mentally ill women found on Indian roads and in rural area.

Rajendra Dhamane, Sucheta Dhamane and Vasant Desale Mauli Institute of Mental Health and Neurosciences (MIMHANS), India

■ **O-9:** Difference of health status and individual level social capital between participants and non-participants to agricultural development project among rural older adults in Japan

Yugo Shobugawa, Hiroshi Murayama, Takeo Fujiwara and Shigeru Inoue. Niigata University, Japan

#### October 10, 10月10日, 11:20am - 11:52am

Chairman: Hiroshi Nagami (永美大志)、Director, Institute for Prevention of Pesticide Adverse Effect on Human (農薬人体影響防止研究所 所長)

**■0-10:** Impact of public expense for the vaccine covered by rural governments on an epidemic of rotavirus enteritis

Yuko Sato, Yoshiaki Sasaki and Hiroki Kajino. Department of Microbiology, Fukushima Medical University School of Medicine, Japan

**©-11:** Our challenge to nurture community-oriented young doctors through overseas primary health care training in collaboration with a medical school in Leyte Island, the Philippines

Jumpei Hasumi, Masahiro Zakoji, Masahiko Sakamoto, Tetsuro Irohira, Akihiro Kitazawa and Kazuya Yui Saku. Central Hospital, Japan

- **■0-12:** HIGH RESOLUTION COMPUTERIZED TOMOGRAPHY (H.R.C.T.) FOR PULMONARY CHANGES IN SMOKE INHALATION IN A RURAL POPULATION DAYANAND SHETTY, SUNDEEP SALVI, BILL BRASHIER, SATISH PANDE, TEJASWI THAMATAM, SMITA KORI and SAJID TAMBE. K.E.M HOSPITAL, PUNE, India
- **O-13:** Type of Rehabilitation Gardens in Sweden with Development of Nature Based Rehabilitation in Japan

Mayuko Ishii, Chikako Haruki, Patrik Grahn, Shin-ichiro Sasahara and Yasuhito Hirai. Medical Corporation Shikoukai, Takase Clinic, Japan

## **Program: Poster Session**

Day 2: October 11 (Thur.) 学会 2 日目: 10 月 11 日 (木) Venue B (会場) TFT Hall 300

Posters will be displayed between 9 am to 6 pm on Day 2, Oct.11, Thur. Tours for poster presentations are not provided in this IARM poster session. The presenters of the displayed posters will be available for questions and answers on Day 2, Oct.11, Thur. 4 pm-5pm.

**■P-1:** Attitudes toward death and preparations for death among the community dwelling elderly in Japan

Michiko Sato-Komata, Akiko Hoshino, Mai Ogura, Nobuhito Ishikawa and Toshiki Katsura. Preventive Nursing, Department of Human Health Sciences, Graduate school of Medicine, Kyoto University, Japan

■ P-2: Risk Factors related to Low Physical and Mental QOL of Elderly Japanese resided in a Rural Town, Ehime, Japan

Mai Ogura, Michiko Komata-Sato, Nobuhito Ishikawa, Akiko Hoshino and Toshiki Katsura. Department of Human Health Sciences Graduate School of Medicine Kyoto University, Japan

■P-3: Risk Factors related to Social Isolation of Elderly Japanese resided in a Rural Town, Ehime, Japan

Toshiki Katsura, Mai Ogura, Michiko Momata-Satoh, Nobuhito Ishikawa and Akiko Hoshino. Department of Human Health Sciences Graduate School of Medicine Kyoto University, Japan

- ■P-4: Nursing Practices for Fall Prevention in Hospitalized Elderly Patients with Dementia Miki Fukuma, Department of Nursing, Faculty of Medicine, Shimane University, Japan
- **■P-5:** Serial changes in Trail Making Test score in patients with mild ischemic stroke Zen Kobayashi, Miho Yoshioka, Keisuke Inoue, Mayumi Watanabe, Kaori Kato, Kazunori Toyoda, Yoshiyuki Numasawa, Shoichiro Ishihara, Hiroyuki Tomimitsu and Shuzo Shintani. JA Toride Medical Center, Japan
- P-6: A Study on Oral Health of Korean National Basic Livelihood Recipients Chang-Suk Kim, Department of dental hygiene, Ulsan College, Korea
- P-7: Relationship between the patient's level of income and centralization of medical service utilization in cardiocerebrovascular disease

Min-Ah Nah, Kyeong-Soo Lee, Chang Suk Kim, Sang Won Kim, Tae-Yoon Hwang and Chang-Yoon Kim. Department of preventive medicine and public health, Yeungnam University, College of Medicine, Korea

■ **P-8:** Feasibility of endoscopic screening for upper gastrointestinal malignancies in a complete medical checkup

Sayaka Sato, Yohei Horikawa, Hiroya Mizutamari, Nobuya Mimori, Yuhei Kato, Masayuki Sawaguchi, Saki Fushimi and Syunji Okubo. Hiraka General Hospital, Japan

■ **P-9:** Significance of airborne pollen measurements as a tool to prevent Japanese pollinosis at the community level in Japan

Hidetoyo Teranishi, Toyama Kyoritsu Hospital, Toyama Health Cooperative, Japan

- ■P-10: Creation of Arena for Elderly Welfare in Japanese Agricultural Cooperative Yuko Kawakami, Kameda College of Health Sciences, Japan
- ■P-11: A Study on the Expectation of Imlant in Koreans Mi-Sook Cho, Choonhae College Dept. of Dental Hygiene, Korea
- **■P-12:** Health Awareness in Elderly Men Living alone: Aimed at four areas of depopulated and aged villages

Kimie Fujikawa, Department of Nursing, Faculty of Health Sciences at Nihon Institute of Medical Science, Japan

**■P-13:** Prevalence of diseases among agricultural workers in rural areas of Japan: Shimane CoHRE study.

Masayuki Yamasaki, Shozo Yano, Miwako Takeda, Tsuyoshi Hamano, Kunie Kohno, Shimane CoHRE study members and Kuninori Shiwaku. Faculty of Human Sciences, Faculty of Medicine, the Center for Community-based Healthcare Research and Education (CoHRE), Shimane University, Japan

- **■P-14:** Barriers to health education service for the elderly patients with hypertension or diabetes Yoon Kyung Kim, Tae-Yoon Hwang, Min-Ah Nah, Kyeong-Soo Lee and Chang-Yoon Kim. Center for hypertension and diabetes registry and education, Gyeongju-si, Korea
- ■P-15: Common Upper Extremity Disorder, Function, and Upper Extremity-related Quality of Life: A Community-based Sample Residing in Rural Areas

Mi-Ji Kim, Dong Kyu Moon and Ki Soo Park. Department of Preventive Medicine and Institute of Health Sciences, Gyeongsang National University School of Medicine, Korea

- ■P-16: WHO Disability Assessment Schedule 2.0 is related to Upper and Lower Extremity disease Specific Quality of Life: A Community-based Sample Residing in Rural Areas Jun-Il Yoo, Ae-Rim Seo, Mi-Ji Kim, Bokyoung Kim and Ki Soo Park. Gyeongsang National University Hospital, Center for Farmer's Safety and Health, Korea
- **■P-17:** Head, upper trunk, and lower trunk axial rotation angles in young baseball players with a history of throwing-related pain

Masashi Kawabata, Toru Miyata, Hiroaki Tatsuki, Yohei Kusaba, Yuichi Kashiwazaki, Shigeru Ishii and Seigo Takano Rehabilitation Center, Sagamihara Kyodo Hospital, Japan

**■P-18:** Relationships between limbs reach tests and range of motion in young baseball players with a history of throwing-related pain

Toru Miyata, Masashi Kawabata, Hiroaki Tatsuki, Yohei Kusaba, Yuichi Kashiwazaki, Shigeru Ishii and Seigo Takano. Rehabilitation Center, Sagamihara Kyodo Hospital, Japan

- ■P-19: A single rural community hospital experience of simultaneous laparoscopic cystectomy and laparoscopic nephroureterectomy with umbilical reduced port surgery outcome Takehiko Okamura, Ryosuke Chaya, Takashi Nagai, Yoshinobu Moritoki, Daichi Kobayashi and Hidetoshi Akita. Anjo Kosei Hospital, Japan
- **■P-20:** Statistical analysis of Ki-67 labeling index in breast cancer as prediction of prognosis Maiko Kawai, Akio Kazama, Ichiro Maeda, Tomohiro Kimura, Daisuke Fujihira, Hisataka Onda, Shigeru Ishii and Seigo Takano. Clinical Laboratory, Japan

**■P-21:** The present conditions and the future prospects of the palliative radiotherapy in our hospital

Shunji Okae, Anjo Kosei hospital, Japan

■P-22: Spatial distribution and clusters of small area cancer incidence in Chungnam province, South Korea

Jee-Hyeon Choi and Hae-Sung Nam. Graduate School of Chungnam National University Department of Public Health, Korea

**■P-23:** Active lifestyle related to well-being of elderly residents in a healthy city aiming at successful aging

Nobuhito Ishikawa, Akiko Hoshino, Miho Shizawa, Kanae Usui, Mai Ogura, Michiko Komata and Toshiki Katsura. Preventive Nursing, Department of Human Health Sciences, Graduate school of Medicine, Kyoto University, Japan

■P-24: Social appearance (sekentei) and cognitive decline among community-dwelling older adults in rural Japan

Hiroshi Murayama, Yugo Shobugawa, Takeo Fujiwara and Shigeru Inoue. Institute of Gerontology, The University of Tokyo, Japan

- ■P-25: Relationship between Frailty and applied activities of daily in elderly people living in low-rural rural areas ~ Focusing on social behavior in indoor and outdoor ~ Saki Ikedo, Yuka Matsumoto, Ryosuke Takagi and Wakaya Fujii. Department of Rehabilitation Tohno Kosei Hospital, Japan
- **■P-26:** Relationship between Frailty and physical and psychosocial factors in elderly people living in lowlands rural areas Examination of factors by discriminant analysis-Wakaya Fujii, Saki Ikedo, Yuka Matsumoto, Ryosuke Takagi and Hirofumi Hirowatari. Department of Rehabilitation, Major in Occupational Therapy, Gifu, Japan Junior college of Health Science
- ■P-27: Association between mobile technology use and emotional/behavioral adjustment in elementary school

Rikuya Hosokawa and Toshiki Katsura. Nagoya City University, Japan

■P-28: A case report of very late recurrence of epithelial ovarian cancer at an extremely rare region: the Canal of Nuck after 26 years of disease free interval Ikuno Yamauchi, Tsuchiura Kyodo General Hospital, Japan

■ P-29: Difficulty of Response to Mental Patients Receiving Hemodialysis Therapy in Dialysis-Health Care-Workers

Ayako Fujita, Nihon Institute of Medical Science, Japan

**■P-30:** The combination of Berg Balance Scale and Moss Attention Rating Scale for assessment of walking independence in acute ischemic stroke

Keisuke Inoue, Yoshiyuki Numasawa, Satoshi Sutou, Masaki Hakomori, Kazunori Toyoda and Hiroyuki Tomimitsu. JA Toride Medical Center, Japan

**■P-31:** Examination of the effect of intervention of image training on patients with chronic stroke Takahiro Takenaka and Yoshinori Kimigaki. Heisei College of Health Sciences, Japan

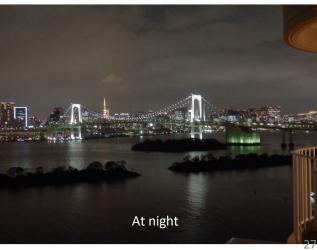
## 2018年10月8日, 東京 有明/お台場, October 8, 2018, Ariake and Odaiba in Tokyo











お台場ヒルトンホテルからの眺め (View from Hilton Tokyo Odaiba, at daytime and night)

## 2018年10月9日 学会長招宴, October 9, 2018, President dinner party

























新谷JARM理事長 (Dr. Shintani) 羽田JARM副理事長 (Prof. Hata) 近藤千葉大教授 (Prof. Kondoh)

小堀茨城県厚生連理事長

(Mr. Kobori)

Prof. Hannich

(ドイツ)

Mrs. Hannich

(ドイツ)

Prof. Istvan Szilard (ハンガリー)

Dr. Zoltan Katz

(ハンガリー)

立身JARM副理事長

(Dr. Tatsumi)

田宮筑波大教授 (Prof. Tamiya)

Dr. Tsoukalas

(ギリシア)

Prof. Nygård (フィンランド)

Dr. Niu (スイス、ILO)





浦田院長 (Dr. Urata) 狩野院長

(Dr. Karino) 水上院長

(Dr. Mizukami) 眞下院長

(Dr. Mashita) 板倉看護部長

(Mrs. Itakura)

吉田看護副部長

(Mrs. Yoshida)

馬場院長

(Dr. Baba) 十川院長

(Dr. Togawa)

佐藤院長

(Dr. Satoh) 塩飽教授

(Prof. Shiwaku)

Prof. Sillwaku) 社浦理事長

(Dr. Shaura)

森院長

(Dr. Mori) 住元院長

(Dr. Sumimoto)





山本院長

( Dr. Yamamoto) 百都名誉院長

(Dr. Momotsu) 伊澤統括院長

(Dr. Izawa) 大浦アドバイザー

> (Mr. Ohura) 家坂院長

(Dr. Iesaka)

吉川名誉院長 (Dr. Yoshikawa)

(Dr. Yoshikawa) 神谷院長

(Dr. Kamiya) 鷹津院長

(Dr. Takatsu)

Prof. Kyeong Soo Lee (韓国) Prof. Lundqvist (スウェーデン) Prof. Moo-Sik Lee (韓国) 青木琉球大教授 (Prof. Aoki) 上田先生 (Dr. Ueda)

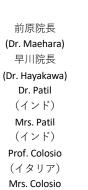




常松JARM事務局長 (Ms. Tsunematsu) 富滿副院長 (Dr. Momimitsu) 鈴木整形外科部長 (Dr. Suzuki) 尾内准教授 (Dr. Onouchi) 藤倉JAとりで事務部長

(Mr. Fujikura) 中野JA共済全国本部医長

(Dr. Nakano)



(イタリア) 菊池院長 (Dr. Kikuchi)











## The President Dinner Party Gifts(学会長招宴の引き出物)



- ■Tin Flower Tray (錫フラワートレイ) 能作(のうさく) 富山県高岡市 錫(100%)の軟らかい特性を生かした富山県の伝統工芸です。The petals can be bent to suit your usage, as a confectionery basket, coaster, or saucer.
- ■HAKUICHI Ball-point Pen(箔ーボールペン)箔ー(はくいち)石川県金沢市 このボールペンは金沢箔工芸品で、2017年、安倍首相がトランプ大統領へのお土産にしたものです。This ball-point pen is covered by "Kanazawa Gold Leaf", and was the present from Japanese Prime Minister Abe to the President of Tramp USA in 2017.



■Somee Tenugui Fuji-Ya(染絵てぬぐい) ふじ屋 東京都台東区浅草2-2-15

この手拭は、東京都の伝統工芸品として指定されている「東京本染ゆかた」と同じ「注染染(ちゅうせんぞめ)とい 34 う伝統技法で作られています。 This Tenugui is using "Chusen: Pour-Dyeing" which designed as the traditional arts and crafts of Tokyo, and this Tenugui is also using same method with "Tokyo Hand-Dyeing Yukata: Japanese summer kimono".

## Day 1

## 2018年10月10日(水), October 10 (Wed.) 2018









Invitation for the membership of IARM (International Association of Rural Health and Medicine)

国際農村医学会(IARM)へ ご入会のお誘い

IARMホームページからご入力ください。 http://www.iarm-jrm.org





### 2018 Joint-Congress on Rural Medicine in Tokyo 2018 ジョイント・コングレス on Rural Medicine in Tokyo

67<sup>th</sup> Congress of Japanese Association of Rural Health and Medicine (JARM) 第 67 回 日本農村医学会・学術総会 20<sup>th</sup> Congress of International Association of Rural Health and Medicine (IARM) 第 20 回 国際農村医学会・学術総会

## Program of the Opening Ceremony 開会式プログラム

Time: October 10<sup>th</sup> (Wed.) 9:00~9:55, 2018 日時: 2018年10月10日(水)(学会1日目)午前9時から Place: Venue A(TFT Hall 500)、会場: A 会場(TFT ホール 500)

- 1. Opening remarks: 1 (開会の挨拶: その 1) 羽田 明、Akira Hata, (in Japanese)
  President, 67<sup>th</sup> Annual Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine
  第 67 回日本農村医学会 (JARM) 学術総会会長、千葉大学大学院医学研究院・公衆衛生学講座教授
- 2. Opening remarks: 2 (開会の挨拶:その 2) Shuzo Shintani,新谷周三 (in English) President, 20<sup>th</sup> Congress of International Association of Rural Health and Medicine 第 20 回国際農村医学会(IARM)学術総会会長、JA とりで総合医療センター院長
- 3. Greeting on behalf of the IARM(挨拶:国際農村医学会を代表して)(in English) Prof. Hans-Joachim Hannich、ハニッヒ教授(ドイツ) President, International Association of Rural Health and Medicine (IARM) 国際農村医学会(IARM)会長 Professor, University of Greifswald, Institute for Medical Psychology, Germany
- 4. Greeting on behalf of the JARM (挨拶:日本農村医学会を代表して) (in Japanese) Shuzo Shintani, 新谷周三日本農村医学会 (JARM) 理事長、JAとりで総合医療センター院長
- 5. Greetings from Vice Presidents of IARM (ご挨拶:国際農村医学会副会長 3 名) (in English)
  - ① Prof. Claudio Colosio, Associate Prof. of Occupational Health, Dept. of Health Sciences of the University of Milan and International Centre for Rural Health, Milano, Italy (イタリア)
  - ② Prof. Peter Lundqvist, Dept. of Work Science, Business Economics and Environmental Psychology, Swedish University of Agricultural Sciences, Sweden (スウェーデン)
  - ③ Dr. Kyeong Soo Lee, Dept. of Preventive Medicine, Yeungnam Univ. College of Medicine, Daegu, Republic of Korea(韓国)

# Joint Congress opening ceremony 合同開会式















Taking a break and chat in the lounge, ラウンジで休憩と談話 Day 1, Venue A 第1日目、A 会場

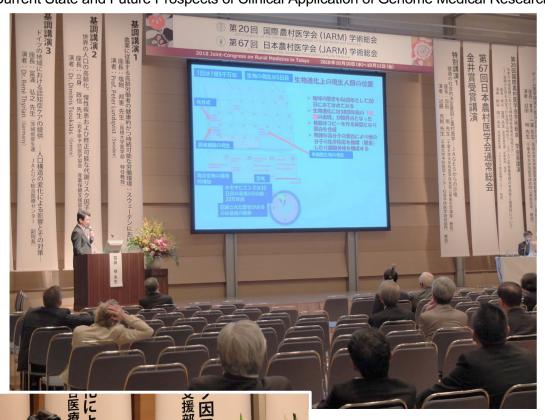


Exhibition and spot sale of Ibaraki products 茨城物産展/即売所



### 10:00-10:55 第67回日本農村医学会学術総会(会長講演)President lecture of JARM

### 「ゲノム医学研究の臨床応用の現状と今後の展望」 「Current State and Future Prospects of Clinical Application of Genome Medical Research



演者:羽田 明(千葉大学大学院 医学研究院・公衆衛生学講座教授、 日本農村医学会副理事長)

**Speaker:** Prof. Akira Hata, Dept. of Public Health, Chiba University Graduate School of Medicine

座長:青木一雄(琉球大学 大学院医学研究科・衛生学/ 公衆衛生学講座教授)

羽田

明先生

**Chairman:** Prof. Kazuo Aoki, Public Health and Hygiene, Faculty of Medicine, University

of the Ryukyus

名誉院長

#### 11:00-12:00 President Lecture (20th Congress of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM)

「Home health care in patients with neurologic impairments in rural areas in Japan: (1) what is the long-term survival-determining factor? (2) Efficacy and ethics of artificial nutrition in the home health care」
「日本の地域医療における神経疾患患者の在宅ケア: (1) 長期の生存を決定づける因子は何か?
(2) 人工的栄養管理の有効性と倫理性について」



Speaker: Dr. Shuzo Shintani (新谷周三) Director, JA Toride Medical Center, President of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM), Japan (茨城県厚生連 JAとりで総合医療センター院長、日本農村医学会理事長)

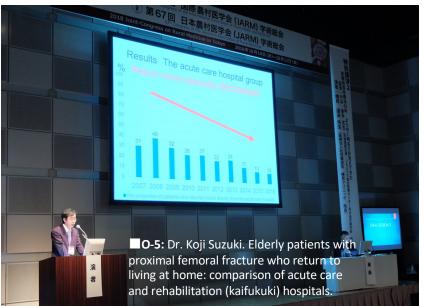
Chairman: Dr. Tomihiro Hayakawa(早川富博)Director, Asuke Hospital, Aichi, Japan(愛 知県厚生連 足助病院院長)







# IARM Oral Session Day 1: October 10(Wed.)Venue B(会場)TFT Hall 300

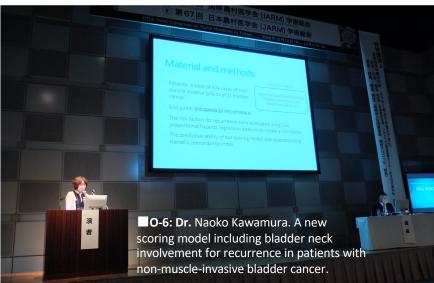


Chairman: Dr. Kenji Kikuchi(菊地 顕次)、Honorary Director, Yuri Kumiai General Hospital (由利組合総合病院 名誉院長)









- ■O-5: Elderly patients with proximal femoral fracture who return to living at home: comparison of acute care and rehabilitation (kaifukuki) hospitals Koji Suzuki, JA Toride Medical Center, Japan
- ■O-6: A new scoring model including bladder neck involvement for recurrence in patients with non-muscle-invasive bladder cancer.
  Naoko Kawamura, Motohiro Fujiwara and Testuo Okuno. JA Toride Medical Center, Japan

## ランチョンセミナー 1 Day 1: October 10(Wed.)Venue B(会場)TFT Hall 300

パーキンソン病におけるMAOB阻害薬の役割を考える ーラサギリンへの期待ー



演者:小仲 邦先生 (学校 法人行岡保健衛生学園大阪 行岡医療大学教授・医療法 人行岡医学研究会行岡病院 神経内科)

座長: 町田 明先生(茨城県厚生連土浦協同病院 神経内科部長)







抗パーキンソン病薬であるモノアミン酸化酵素B (monoamine oxidase B; MAOB) 阻害薬はドパミンやセロトニンの分解酵素であるMAOB の働きを阻害することによって脳内のドパミン濃度を上昇させ、パーキンソン症状に治療効果を示す。本邦で久々に新たな選択的MAOB 阻害薬であるラサギリン(アジレクト®)が2018年6 月に保険収載された。

本剤は早期及び進行期のいずれのパーキンソン病患者において運動症状の改善を示し、アンフェタミンの骨格構造を持たないことより保管が簡易となること、1日1回の服用であることより良好なコンプライアンスが得られることなど汎用性が上がる点が期待される。ラサギリンの国内及び海外の臨床試験を検証すると共に2018年5月に改訂された『パーキンソン病診療ガイドライン2018』に基づいてパーキンソン病の直近の治療アルゴリズムの紹介、本剤の治療アルゴリズムの中での位置づけについて概説を行ないたいる

### 第1日目:13:00-13:55 日本農村医学会 第67回通常総会 General Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM)



壇上左から、常松事務局長、前原副理事長、新谷理事長、羽田副理事長、菊池次期(2019年)学会長



今年度(2018年度)の監査報告をされる大浦監事



左から、常松事務局長、前原副理事長、新谷理事長



来年度(2019年度)の第 68 回学術総会(北海道)の概要を説明される菊池英明先生 (JA北海道厚生連帯広厚生病院長)

- ■メインテーマ 「北の大地で、今と未来の地 域医療を考える」
- ■2019)年10月17日(木)-18日(金)
- ■会場「とかちプラザ」

〒080-0014 帯広市西 4 条南 13 丁目 1 「ホテル日航ノースランド帯広」

〒080-0012 帯広市西 2 条南 13 丁目 1

# 日本農村医学会第67回通常総会・表彰式

# General Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM)



今回(第67回)の学会をもって名誉会員になられた大分厚生連鶴見病院名誉院長 明石光伸先生



究院公衆

高橋金雄先生

第50回日本農村医学会賞を受賞された由 利組合総合病院名誉院長の菊地顕次先生

第44回日本農村医学会金井賞を受賞された高橋金雄先生(元安房医師会病院地域医療部長)

### 日本農村医学会第67回通常総会・表彰式(つづき)

General Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM)



第25回日本農業新聞賞を受賞された上田 厚先生(熊本大学名誉教授、東アジアヘルスプロモーション・ネットワークセンター長 Director of East Asia Health Promotion Network Center





第50回日本農村医学会賞を受賞 された由利組合総合病院名誉院 長の菊地顕次先生のご挨拶

金井賞を受賞された高橋金雄先生 (元安房医師会病院 地域医療部 長)による受賞講演「千葉県安房 地域における地域住民総合検診と 館山市小児肥満対策」



# 14:00~15:00 特別講演 2, Special Lecture 2 of JARM

「腎臓病保存療法43年. ようやく明るさが見えてきた」「Conservative kidney management for 43 years. We are near daylight」



**Chairman**: Dr. Taihei Imai(今井泰平)JA Toride Medical Center, Ibaraki, Japan(茨城県厚生連 JAとりで総合医療センター)

**Speaker**: 椎貝達夫(椎貝クリニック 院長) Dr. Tatsuo Shiigai, Director of Shiigai Clinic







# 14:00-14:55 Keynote Lecture:IARM ① (Sweden、スウェーデン)

「Healthy and sustainable workplaces for older workers in agriculture - A Swedish perspective」 「農業に従事する高齢労働者の健康的かつ持続可能な労働環境:スウェーデンにおける考察」



土浦協同病院

健 ク アでf. Peter Lundqvist

Prof. Peter Lundqvist

Speaker: Prof. Peter Lundqvist <sup>2</sup> Dr. Kerstin Nilsson<sup>1, 2</sup>, <sup>1</sup> Lund University, Division of Occupational and Environmental Medicine, Lund, Sweden <sup>2</sup> Swedish University of Agricultural Sciences, Department of Work Science, Business Economic & Environmental Psychology, Alnarp, Sweden

特任教授)

Prof. Peter Lundqvis

Prof. Peter Lundqvist

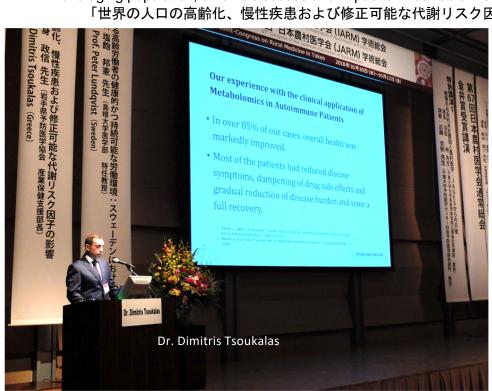
Has the partici

Study of the t

Chairman: Prof. Kuninori Shiwaku (塩飽邦憲)Specially-appointed professor of Shimane University, Faculty of Medicine, Shimane, Japan (島根大学医学部 特任教授)

### 15:00-15:55 Keynote Lecture: IARM ② (Greece, ギリシア)

「World aging population, chronic diseases and impact of modifiable-metabolic risk factors」 「世界の人口の高齢化、慢性疾患および修正可能な代謝リスク因子の影響」



**Speaker**: Dr. Dimitris Tsoukalas (President of the European Institute of Nutritional Medicine: E.I.Nu.M.)

#### Chairman:

Dr. Masanobu Tatsumi (立身政信)

The association of preventive medicine of Iwate Prefecture, Iwate, Japan(岩手県予防医学協会 産業保健支援部長)



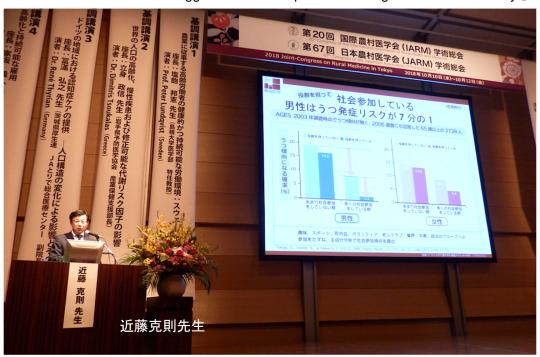






### 16:00-16:55 第67回日本農村医学会学術総会(特別講演 1) Special Lecture 1 of JARM

「健康の社会的要因と農村医学 - JAGESプロジェクトからの示唆」「Social Determinants of Health and Rural Medicine—Suggestions from Japan Gerontological Evaluation Study」





演者:近藤克則(千葉大学予防医学センター教授/国立長寿医療研究センター老年学・社会科学研究センター老年学評価研究部長)

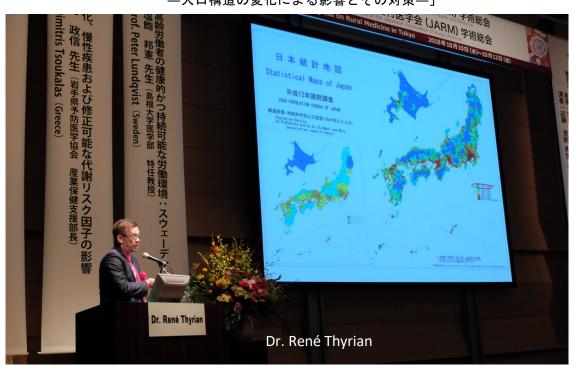
**Speaker**: Prof. Katsunori Kondo, Center of Preventive Medical Sciences, Chiba University

**座長**:羽田 明(千葉大学 大学院医学研究院 公衆衛 生学講座教授)

**Chairman**: Prof. Akira Hata, Dept. of Public Health, Chiba University Graduate School of Medicine

### 17:00-17:55 Keynote Lecture:IARM ③(Germany ドイツ)

「Providing Dementia Care in a rural region in Germany – consequences of demographic change and concepts to encounter these」 「ドイツの地域における認知症ケアの提供 —人口構造の変化による影響とその対策—」









**Speaker:** Dr. René Thyrian (Group Leader, German Center for Neurodegenerative Diseases (DZNE), DZNE Rostock/ Greifswald, Germany)

**Chairman:** Dr. Hiroyuki Tomimitsu (冨滿弘之)Vice Director, JA Toride Medical Center, Ibaraki, Japan (茨城県厚生連 JAとりで総合医 療センター副院長)

### 18:00-19:00 Keynote Lecture:IARM ④ (Finland フィンランド)

「Aging and sustainable employment」「高齢化と持続可能な雇用」

**Speaker**: Prof. Clas-Håkan Nygård(Faculty of Social Sciences Health Sciences, University of Tampere, Finland. **Chairman**: Dr. Yoshito Iesaka(家坂義人)Tuchiura Kyodo General Hospital, Ibaraki, Japan(茨城県厚生連 土浦協同病院)







# 第1日目 10月10日(水)一般演題 ポスター発表 General Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM)



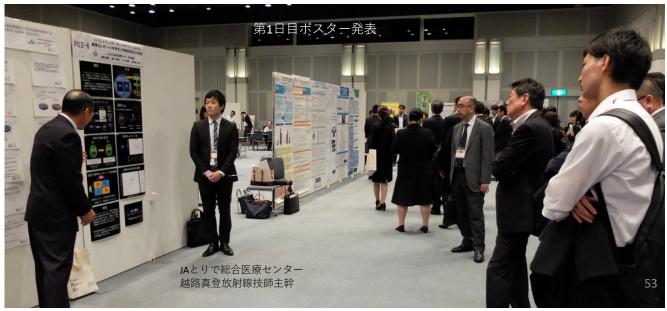
土浦協同病院 宮本 副院長兼看護部長

# 第1日目 10月10日(水)一般演題 ポスター発表(つづき)









# 第1日目 10月10日(水)一般演題 ポスター発表(つづき)

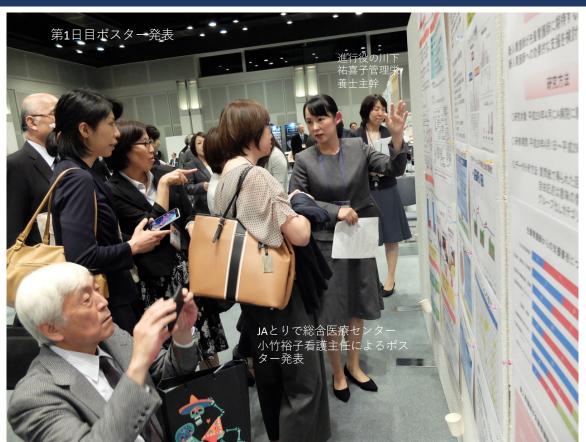








# 第1日目 10月10日(水)一般演題 ポスター発表(つづき)







# Day 2

■第67回日本農村医学会・学術総会 シンポジウム 「高齢化・生産人口減少社会の中での地域医療 in the world: 日本では首都圏、地方都市、中山間地のそれぞれにおいて」

### 9:00~11:55 シンポジウム 1:大都市圏・首都圏近郊の病院において

#### ■座長

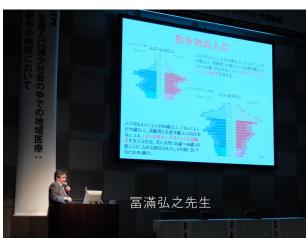
①前原和平 (白河厚生総合病院 院長) ②高野靖悟 (相模原協同病院 院長)

#### ■シンポジスト

①冨滿弘之(JAとりで総合医療センター副院長)

②浦田士郎(安城更生病院 院長)

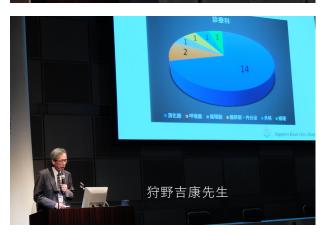
③狩野吉康(札幌厚生病院 院長)













### 9:00~11:55 シンポジウム 1:大都市圏・首都圏近郊の病院において(総合討論)





- ■シンポジスト1
  - ①冨滿弘之
- (JAとりで総合医療センター 副院長)
- ②浦田士郎
- (安城更生病院 院長)
- ③狩野吉康
- (札幌厚生病院 院長)



- ①前原和平
- (白河厚生総合病院 院長)

シンポ**ジ**ウム1:大都市圏・首都圏 近郊の病院において(総合討論)

- ②高野靖悟
- (相模原協同病院 院長)



# 9:00-9:55 Keynote Lecture:⑤(Italy)イタリア

「Workforce ageing an emerging challenge for Occupational Health and Safety and the Diagnosis and Prevention of Occupational Diseases」「労働人口の高齢化:労働衛生と安全、職業病の診断と予防に対する新しい挑戦」





**Speaker**: Prof. Claudio Colosio (Department of Health Sciences of the University of Milan,and International Centre for Rural Health of the S. Paolo Hospital of Milano, Italy)

Chairman: Dr. Takeshi Momotsu (百都 健)Honorary Director, Sado General Hospital, Niigata, Japan(新潟県厚生連 佐渡総合病 院名誉院長)



### 10:00-10:55 Keynote Lecture:⑥ (Serbia) セルビア

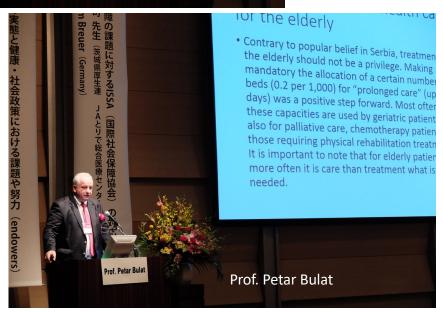
「Ageing Serbian rural population: defining the health care needs and searching for solutions」 「高齢化するセルビアの地方住民:必要とされる医療とその解決法の検討」





**Speaker**: Prof. Petar Bulat (University of Belgrade Faculty of Medicine & Serbian Institute of Occupational Health, Belgrade Serbia)

**Chairman**: Dr. Naohito Yamamoto(山本 直人)Director, Kainan Hospital, Aichi, Japan(愛知県厚生連 海南病院院長)



# 11:00-12:00 Keynote Lecture:⑦(ILO, Switzerland)国際労働機関、スイス

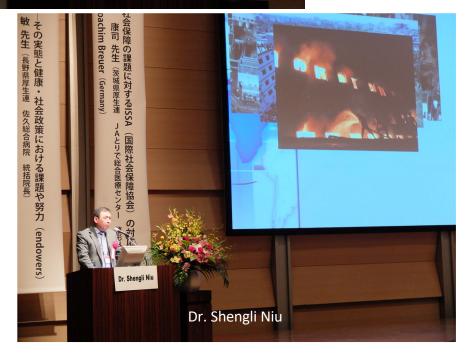
「Prevention of occupational risks and diseases in agriculture」 「農業における職業病のリスクと疾病の予防」





**Speaker:** Dr. Shengli Niu (Senior Specialist on Occupational Health, International Labour Office (ILO), Geneva, Switzerland)

**Chairman:** Dr. Satoshi Inaba(稲葉 聡)Engaru Kousei Hospital, Hokkaido, Japan (北海道厚生連 遠軽厚生病院)



# 13:00-14:55 Board Meeting & General Assembly of the International Association of rural health and medicine (IARM) 国際農村医学会、理事会・総会









Lecture of Prof. Dr. Hans-Joachim Hannich, President of the International Association of Rural Health and Medicine (IARM), University of Greifswald, Institute for Medical Psychology, GERMANY

本学会は、農村医学ならびに地域医療/地域保健に職業として携わる人たちの自主独立の組織であり、WHO、ILO、FAO、UNESCOや関連NGOなどと協力しながら「21世紀にすべての人に健康を」とするWHOが掲げる目的を支持しています。

# Greetings from the President of IARM



Prof. Dr. Hans-Joachim Hannich, President International Association of Rural Health and Medicine (IARM)

As president of IARM it is an immense pleasure forme to invite you to the  $20^{th}$  International Congress of the International Association and Rural Health and the  $67^{th}$  Annual Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine. This Joint Congress takes place from the  $10^{th}$  till the 12 of October in Tokyo.

The focus of this international Congress on "Challenges to community-based rural medicine in aging societies with declining productive populations" is relevant for several countries all over the world. According to the 2015 Revision of the World Population Prospects of the United Nation Population Division, we have to expect a significant change in the rate of people with 65 years or older in the world countries. This is especially true for Japan where, by the year 2025, almost one in every five Japanese people will be at the age of 75 or over. In other countries, the aging of the societies is also remarkably progressing. When we look at Europe for instance, the

population shift towards elderly people requires profound changes in the health system especially in Italy, France and Germany. Also in developing countries, the number of people older than 65 is gradually increasing. So, we can assume that addressing the issues of an aging society will be a common challenge worldwide.

As the generational change will mostly happen in rural areas, it is of particular importance to face its consequences for rural communities. Concepts of country-specific measures have to be developed taking into account the special situation of elderlies caused by rurality. The aim must be to establish a constant access to medical, nursing and social support on a low threshold level even in remote areas. The expansion of multiprofessional e-health oriented approaches can only be an example for steps leading into this direction. We, too, have to think about strengthening the competencies of families and of neighborhood in looking after elderly persons. This is not only true for rural, but also for urban settings. The search for solutions also includes the question of financing an elderly-oriented health care system, because someone has to pay the bill... At the latest at this point, it becomes clear that all parts of the society are involved to respond appropriately and humanly to the challenges of the aging society.

The 20<sup>th</sup> International Congress of IARM contributes to the world-wide discussion about generational change. Describing the current situation is the starting point for promoting future concepts of country-specific measures adapting to the challenge of elderly people. Highly relevant topics to be discussed are:

- the long-term effects of aging societies on the health care insurance systems
- concepts for long-term care health insurance for elderly
- country-specific preparations for elderly with dementia
- country-specific views on the state of home health care for elderly

Experts from all over the world will present their experiences and research results on each of these topics. I also hope that the participants of this Congress will actively share their valuable views and contribute their findings to make this event an unique occasion for a fruitful and pioneering exchange of ideas.

My thanks go to the Japanese Association of Rural Medicine which is responsible for this important meeting. I congratulate the organizers for choosing the topic of aging societies as the main theme for the 20<sup>th</sup> International Congress of IARM and the 67<sup>th</sup> Annual Meeting of JARM and I wish them a grand success.

October, 2018

# IARM board meeting (continued)











### 15:00-15:55 Keynote Lecture:⑧ International Social Security Association (ISSA) 国際社会保障協会

「Answers of the ISSA to challenges for social security in rural areas」 「農村地域における社会保障の課題に対するISSA(国際社会保障協会)の対応策」



Dr. Joachim Breuer

Dr. Joachim Breuer

Speaker: Dr. Joachim Breuer, President of the International Social Security Association (ISSA), German Social Accident Insurance (DGUV), Berlin, Germany

Dr. kohji Suzuki

Dr. Kohji Suzuki

**Chairman:** Dr. kohji Suzuki(鈴木康司)JA Toride Medical Center, Ibaraki, Japan(茨城県厚生連 JAとりで総合医療センター)

### 16:00-16:55 Keynote Lecture: ⑨ (Hungary) ハンガリー

「The ageing population in Hungary – facts, challenges and endowers in the health and social policy」「ハンガリーの高齢化 ーその実態と健康・社会政策における課題や努力(endowers)」



Speaker: Prof. Istvan Szilard (Department of Operational Medicine – WHO Collaborating Centre University of Pécs Medical School, Hungary)

Chairman: Dr.
Satoshi Izawa(伊澤 敏)Director, Saku General Hospital, Nagano, Japan(長野 県厚生連 佐久総合 病院統括院長)

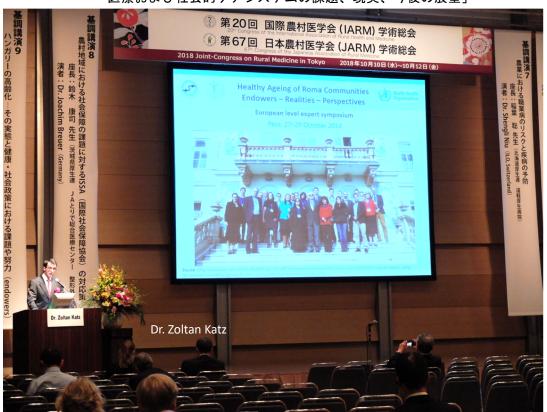






### 17:00-18:00 Keynote Lecture:⑩(Hungary)ハンガリー

「Ageing Roma ethnic minority population in Hungary – Challenges, realities, perspectives for the health and social care system 」「ハンガリーの高齢化するロマ少数民族
—医療および社会的ケアシステムの課題、現実、今後の展望」





http://s1.zetaboards.com/ar pe/topic/5477140/1/ (2007) Dr. Kazuo Sumimoto

Speaker: Dr. Zoltan Katz (Assistant professor, University of Pécs, Medical School (UP-MS), Department of Operational Medicine, Chair of Migration Health, Pécs, Hungary)

Chairman: Dr. Kazuo Sumimoto(住元 一夫)Director, Yoshida General Hospital, Hiroshima, Japan(広島県厚生 連 吉田総合病院院長)

# ランチョンセミナー 8 Day 2: October 11(Thu.)Venue B(会場)TFT Hall 300



座 長:染川可明 (茨城県厚生連 JA とりで 総合医療センター副院長)









大切にしたい自分の体: 2度の子宮がんを 経験して 演者:原 千晶(よつばの会 代表)先生

30代で2度の大きながんを経験。がん宣告をうけたときの綺麗事だけではすまされない心の機微、悩み苦しみ、そしてその苦しみを乗り越え、いたった思いなどをお話しさせていただきます。

女性特有のガンで苦しむ女性が少なくなってほしい……もっと女性として、自分を大切にして欲しい…

…女性として傷つくことがなくなってほしい ……世の中の女性が沢山の幸せを感じられる 存在になってほしい……。

そんな願いをこめて,語りつくせぬほど の思いを伝えさせていただきます。

# Day 2

■第67回日本農村医学会・学術総会 シンポジウム 「高齢化・生産人口減少社会の中での地域医療 in the world: 日本では首都圏、地方都市、中山間地のそれぞれにおいて」

### 15:00~18:00 シンポジウム2:地方中核都市の病院において

#### ■座長

院長) ①菊池英明(北海道厚生連 帯広厚生病院 ②馬場良和(山口県厚生連 周東総合病院 院長)

#### ■シンポジスト

①齊藤 研(秋田県厚生連 平鹿総合病院 院長) ②十川康弘(上都賀厚生連 上都賀総合病院 院長)

③佐藤賢治(新潟県厚生連 佐渡総合病院 院長)





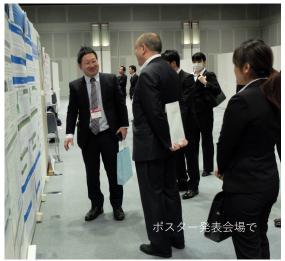






左から、朝秀愛看護主任、鈴木里美看護主任、吉田弘美看護副部長、 野崎千恵子審査役検査主任、川下祐喜子管理栄養士主幹、板倉紀子副院長兼看護部長









# Day2: 19:00-21:00, Social gathering party (会員懇親会) at the TOC (Tokyo wholesale center)





- ■Toast(乾杯のご発声)Dr. Ashok Vikhe Patil、パティル前会長(インド)Immediate Past President of IARM(前・国際農村医学会会長)
- ■Greetings on behalf of the IARM(国際農村医学会を代表してご挨拶)Prof. Hans-Joachim Hannich、ハニッヒ教授(ドイツ)President, International Association of Rural Health and Medicine (IARM)国際農村医学会(IARM)会長
- ■Japanese traditional event, Iwami Kagura performance (余興:石見神楽、八岐大蛇)





### Entertainment of the social gathering party (会員懇親会の余興)

- **Myths** in ancient Japan: Susanoo and Yamata no Orochi (八岐大蛇、やまたのおろち) We are planning Iwami Kagura performance, Susanoo and Yamata no Orochi which is representative of Japan. It is the most majestic and powerful play that takes in ancient Japan and is entertaining for both Japanese and foreigners.
- Time: October 11<sup>th</sup> (Thu), 2018, 19:00, at the social gathering party
- Place: Reception venue, TOC (Tokyo wholesale center) Top floor, 5 minutes on foot from the TFT building



Susanoo left Heaven and went to Earth, where he landed at the foot of the Hii River. Seeing chopsticks floating down the river, he supposed that there were people living upstream. Of course, he was right, and as he was walking up the river, he met two old people. The old man's name was "Foot Stroking Elder," and the old woman's name was "Hand Stroking Elder."

Between them stood a lovely young maiden whom they called, "Kushinada Hime." They were all crying. Susanoo, touched by the sight of such sadness, asked them

why they were lamenting so. The old man told him that every year a great snake had come, and eaten one of their eight daughters!

Kushinada was the last one left!

The snake was called "Yamata no Orochi" and was huge enough to cover eight valleys and mountains!

Susanoo decided he would help

them, because the girl was very beautiful. He asked the old people if he could have their daughter for a wife if he killed the snake. Of course, they didn't want to let just anyone have their daughter, so

Goddess. At this news, they agreed, and he instantly turned

they asked him who he was. He said he was the brother of the Sun

Kushinada into a comb, and put her into his hair. Combs are important!

Then he told the old folks to prepare eight tubs of powerful sake. They did this, and put them in the entrances of the eight- opening fence, that Susanoo had ordered. After getting ready in this way, the great snake was seen to be approaching. Susanoo was ready for the fight, too. Yamata no Orochi came to the fence, drank all the sake, and fell asleep. Then Susanoo attacked, and cut off the snake's eight heads and tails! It was a terrible fight, but Susano won!

After winning the fight, Susanoo took the eight heads he had cut off, and buried them at a site named, "Eight Cedar Trees." This site is near the town of Kisuki. On top of each head, he planted a cedar tree, and when they were destroyed by floods or disease, other cedars were planted. The last ones were planted in 1873. In one of the center tails, he found a wonderful sword that he named "Murakumo." Susanoo gave the beautiful sword, "Murakumo," that he had found in the tail of Yamata no Orochi, to his sister as a token of peace, and to show his regard for her.



She graciously accepted it, and it eventually became a part of the Three Imperial Regalia. The other two parts are a mirror, given her by the gods of Heaven, and a curved jewel necklace, given to her by her

father, Izanagi. The sword's name was finally changed to "Kusanagi," but that is another tale.

It is believed that the terrible snake of mythology was the many rivers, which caused much distress for the people through floods. Susanoo, an engineer, helped control the floods with dikes and dams. The Red River,

which was thought to be red from Yamata no Orochi's blood, is the source of iron sand that is the material used to make the famous Japanese swords, as well as knives and agricultural tools—a great discovery! This iron sand, caused the river to be red, and it is still being used by local steel companies!

After killing the terrible snake, Susanoo and his bride went to Yaegaki Shrine, which is dedicated to Inada, to live. Then he moved to Daito, in Shimane Prefecture. Later, he became the ruler of the Land of Darkness, the gate to which is in Higashi Izumo.













■Myths in ancient Japan: Susanoo and Yamata no Orochi (八岐大蛇、やまた のおろち)

We are planning Iwami Kagura performance, Susanoo and Yamata no Orochi which is representative of Japan. It is the most majestic and powerful play that takes in ancient Japan and is entertaining for both Japanese and foreigners.









# Day 3

■第67回日本農村医学会・学術総会 シンポジウム 「高齢化・生産人口減少社会の中での地域医療 in the world: 日本では首都圏、地方都市、中山間地のそれぞれにおいて」

#### 9:00~11:55 シンポジウム3:中山間地の病院において

#### ■座長

①社浦康三(長野県厚生連 理事長)

②森 拓也 (三重県厚生連 鈴鹿中央総合病院 院長)

#### ■シンポジスト

①早川富博(愛知県厚生連 足助病院 院長)

②矢澤正信(長野県厚生連 富士見高原病院 統括院長

③住元一夫(広島県厚生連 吉田総合病院 院長)















### ランチョンセミナー **14** Day 3: October **12**(Fri.)Venue B(会場)<u>TFT Hall **300**</u>



■座 長: 小川晋一先生 (茨城県厚生 連 JA とりで総 合医療セン ター血液内科 科長)

■抗菌薬適正使用プログラムASPの推進:水戸協同病院での事例紹介を含めて ■演者:矢野晴美先生(国際医療福祉大学医学部医学教育統括センター 教授)

現在、抗菌薬適正使用プログラムAntimicrobial stewardship プログラム(ASP)の推進は、抗菌薬耐性AMRへの対応として、世界的な課題となっている。抗菌薬を次世代に残すため、いま医療従事者、一般市民がともに取り組むべき課題である。医療従事者としては、不要な抗菌薬を投与しない臨床判断力のトレーニングが不可欠である。また多職種連携を行ない、さまざまな職種の角度から適正使用が望まれる。2018年4月から、ASPを推進する活動、小児科領域では抗菌薬を処方しないことに保険点数が認められた。

筑波大学附属病院水戸地域医療教育センター・水戸協同病院では、約10年前に総合内科を中心とする教育病院として、診療体制を大きく変換したが、それ以降、耐性菌の割合が著明に減り、カルバペネム系薬の使用も大きく減少した。現在、感染症科の勤務体制が変更となったが、引き続き抗菌薬の適正使用の推進に多職種連携で取り組んでいる。水戸協同病院でのASPに関する取り組みを国内での適正使用推進のモデル体制のひとつとしてその数年の取り組み内容をご紹介する。





## 9:00-12:00 Symposium for the future prospects in progressive aging societies in South Korea (South Korea) シンポジウム:韓国において進行する高齢化の中で将来の展望

「Current situation and future prospects of South Korea health insurance systems including the long-term care health insurance for aging people」「韓国における健康保険システム(高齢者に対する長期の介護保険システムを含む)の現在と未来の展望について」







**Keynote Speaker** (1): Kyeong Soo Lee, MD, PhD. (Vice-president of IARM, Department of Preventive Medicine, Yeungnam Univ. College of Medicine, Daegu, Republic of Korea)

#### Chairman:

- (1) Dr. Yasuhiro Togawa(十川康弘)Director, Kamitsuga General Hospital, Tochigi, Japan (上都賀厚生連 上都賀総合病院院長)
- (2) Mr. Eiji Ooura(大浦栄次)Kouseiren of Toyama Prefecture, Toyama, Japan(富山県厚 生連 健康福祉課健康福祉アドバイザー)

## 9:00-12:00 Symposium for the future prospects in progressive aging societies in South Korea (South Korea) 韓国シンポジウム:韓国において進行する高齢化の中で将来の展望

「Preparation and Measures for Elderly with Dementia in Korea ; Focus on National Strategies and Action Plan against Dementia」 「韓国における高齢認知症患者への対応と対策一認知症に対する国家戦略および行動計画」





Keynote Speaker 12:
Moo-Sik Lee MD, PhD
(Department of Preventive
Medicine, College of
Medicine, Konyang
University, Republic of
Korea)



#### Chairman:

- (1) Dr. Yasuhiro Togawa(十川康弘) Director, Kamitsuga General Hospital, Tochigi, Japan(上都賀厚生連 上都賀総 合病院院長)
- (2) Mr. Eiji Ooura(大浦栄次)Kouseiren of Toyama Prefecture, Toyama, Japan(富山県厚 生連 健康福祉課健康福祉アドバイザー)

## 9:00-12:00 Symposium for the future prospects in progressive aging societies in South Korea (South Korea) シンポジウム:韓国において進行する高齢化の中で将来の展望

「Current state of home visit nursing care in South Korea」 「韓国における訪問看護 (home Visit Nursing Care) の現状」





**Keynote Speaker** : Prof. Eunok Park (College of Nursing, Jeju National University, Republic of Korea)

#### Chairman:

- (1) Dr. Yasuhiro Togawa(十川康弘) Director, Kamitsuga General Hospital, Tochigi, Japan(上都賀厚生連 上都 賀総合病院院長)
- (2) Mr. Eiji Ooura(大浦栄次) Kouseiren of Toyama Prefecture, Toyama, Japan(富山県厚生連 健康福祉課健康 福祉アドバイザー)





#### 13:00-13:55 第67回日本農村医学会学術総会(教育講演)Educational Lecture of JARM

「超高齢化社会に対応するための医療介護Big Dataの活用」 「Utilization of healthcare big data to respond to a super aging society」





演者: 伏見清秀(東京医科歯科大学大学院 医療政策情報学分野教授)

Speaker: Kiyohide Fushimi, Prof. of Health Policy and Informatics Section, Tokyo Medical and Dental University Graduate School

座長:新谷周三(茨城県厚生連 JAとりで総合 医療センター院長、日本農村医学会理事長) **Chairman:** Dr. Shuzo Shintani, Director, JA Toride Medical Center, President of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM), Japan

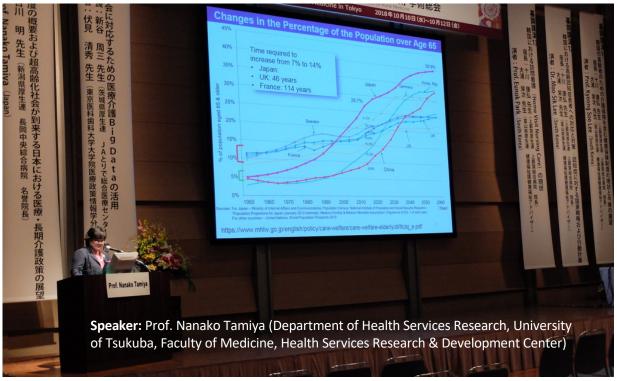




### 14:00~15:00 Keynote Lecture:⑭ (Japan) 日本

「Overview of the post-war Japanese medical care system and prospects of medical and long-term care policies in the advent of ultra-aging society」

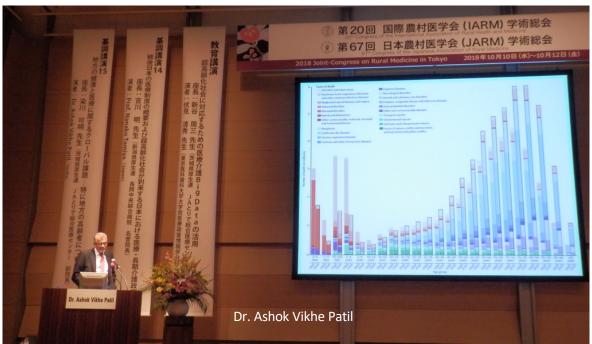
「戦後日本の医療制度の概要および超高齢化社会が到来する日本における医療・長期介護政策の展望」





#### 15:00 $\sim$ 15:55 Keynote Lecture: 15 (India) $\prec \succ \vdash$

「Global challenges to Rural Health and Medicine, with special reference to the Elderly in Rural areas」「地方の健康と医療に関するグローバル課題―特に地方の高齢者について」







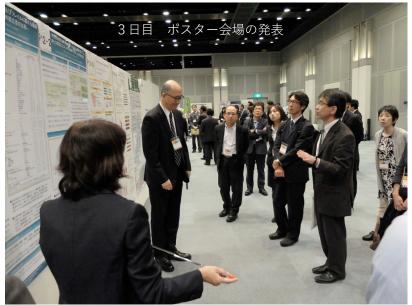
	mortality and burden of disease, 2004 disability-adjusted life year (DALY) is a measure of overall disease burden, expressed as the number of years lost due to ill-health, disability or early death					
	Attributable Mortality			Attributable DALYs		
		%			%	
1.	High blood pressure	12.8	1.	Childhood underweight	5.9	
2.	Tobacco use	8.7	2.	Unsafe sex	4.6	
3.	High blood glucose	5.8	3.	Alcohol use	4.5	
4.	Physical inactivity	5.5	4.	Unsafe water, sanitation, hygier		
5.	Overweight and obesity	4.8	5.	High blood pressure	3.7	
6.	High cholesterol	4.5	6.	Tobacco use	3.7	
7.	Unsafe sex	4.0	7.	Suboptimal breastfeeding	2.9	
8.	Alcohol use	3.8	8.	High blood glucose	2.7	
9.	Childhood underweight	3.8	9.	Indoor smoke from solid fuels		
10.	Indoor smoke from solid fuels	3.3	10.	Overweight and obesity	2.3	
59 r	nillion total global deaths in 200	14	1.5	billion total global DALYs in 20	04	

Speaker: Ashok Vikhe
Patil (Executive Chairman,
Pravara Rural Education
Society, DIST-AHMEDNAGAR,
Immediate Past President of
International Association of
Rural Health and Medicine
(IARM)

Chairman: Dr. Yoshiaki Somekawa(染川可明)Vice Director, JA Toride Medical Center, Ibaraki, Japan(茨城県 厚生連 JAとりで総合医療センター副院長)

### 第3日目 10月12日(金)一般演題 ポスター発表

General Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine (JARM)



西館2階 TFTホール1000

学会3日目 ポスター会場での討論



学会**3**日目 ポスター会場での発表と討論



学会**3**日目 ポスター会場での発表と討論

### 第3日目 10月12日(金)一般演題 ポスター発表(つづき)



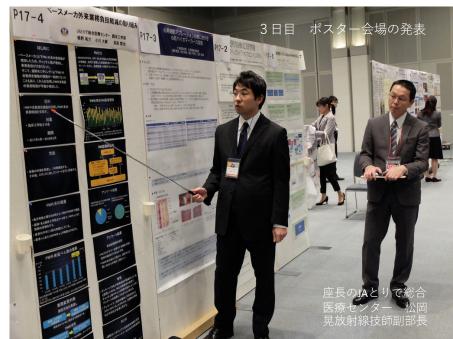
西館2階 TFTホール1000

学会3日目 ポスター会場 での討論





学会3日目 ポスター会場での討論



発表するJAとりで総合医療センター 槇野祐介 臨床工学技士

## 第3日目 10月12日(金)一般演題 ポスター発表(つづき)



西館2階 TFTホール1000

発表するJAとりで総合 医療センター 石神亜 矢子臨床検査技師

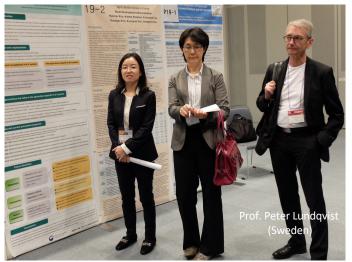
学会3日目 ポスター 会場での討論



発表するJAとりで総合医療センター広田百合子検査主任



左から、クリストファー志穂さん、浅沼信治日本農村医学研究所客員研究員





左から、クリストファー志穂さん、浅沼信治日本農村医学研究所客員研究員

#### Joint Closing and Awards Ceremony 合同閉会式/表彰式

Time: October 12th (Fri.) 16:00~17:00, 2018

日時:2018年10月12日(金)(学会3日目)午後4時から Place: Venue A (TFT Hall 500)、会場: A会場(TFTホール500)



Closing remarks:1(閉会の挨拶)羽田 明教授、Prof. Akira Hata, President, 67th Annual Meeting of the Japanese Association of Rural Medicine,第67回日本農村医学会 (JARM) 学術総会会長、千葉大学大学院医学研究院・公衆衛生学講座教授



Closing remarks: 2 (閉会の挨拶) Dr. Shuzo Shintani, 新谷周三、President, 20th Congress of International Association of Rural Health and Medicine、第20回国際農村医学会(IARM)学術総会会長、JAとりで総合医療センター院長



Greeting on behalf of the IARM(挨拶:国際農村医学会を代表して)Prof. Hans-Joachim Hannich、ハニッヒ教授(ドイツ)President, International Association of Rural Health and Medicine (IARM) 国際農村医学会(IARM)会長



2018 Tokyo Declaration, 東京宣言 (第67回日本農村医学会学術総会・第20回国際農村医学会学術総会) Dr. Hiroyuki Tomimitsu, 冨満弘之, JAとりで総合医療センター副院長





Awards Ceremony(研修医優秀発表表彰)羽田 明教授、Prof. Akira Hata、第67回日本農村医学会 (JARM) 学術総会会長

### Next 21th IARM Congress in Hungary (Pécs ) in 2020

#### Prof. Istvan Szilard

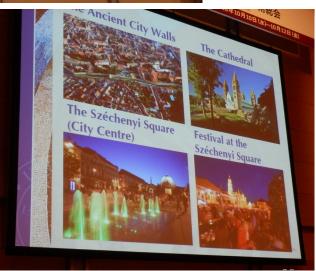
Department of Operational Medicine – WHO Collaborating Centre University of Pécs Medical School, Hungary











About Pécs About Pécs

86

## 22th IARM Congress in Serbia (Belgrade ) in 09.-11. 09. 2021

#### Prof. Petar Bulat

University of Belgrade Faculty of Medicine & Serbian Institute of Occupational Health, Belgrade Serbia



Health and Medicine (IARM) 2021

Belgrade, Serbia 09.-11.09.2021.

3h

Liberal Visa policy!
50 destinations directly connected
10-15' from convention/city center

Excellent Bus and Irain regional network connections!

Prof. Petar Bulat

Location of Belgrade in Serbia





About Belgrade in Serbia

About Belgrade in Serbia

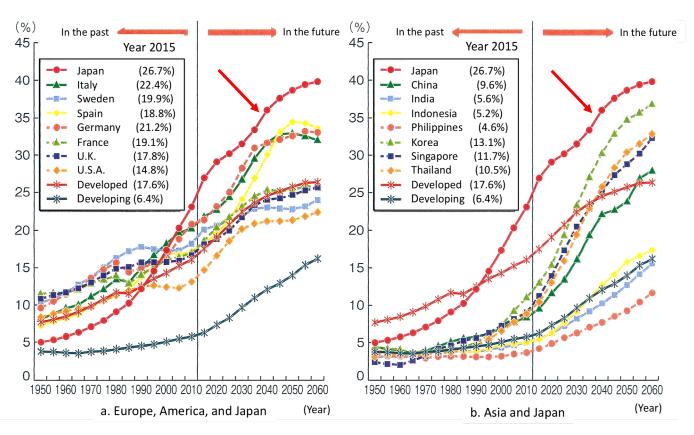




About Belgrade in Serbia

About Belgrade in Serbia

#### The change in the rate of people, 65 years old or over in the world countries



Reference: World Population Prospects: The 2015 Revision

I will show you this impressive slide. This is a graph of secular change of the population ratio over the age of 65 in the world, <u>the left</u> is the comparison between Japan and European countries, and <u>the right</u> is the one with Japan and Asian countries.

The graph on the left indicates that the aging rate in Japan exceeded Europe in the late 1980s and 2000s. The aging rate in Japan dramatically increased in only about 15 years, and after that it continues to be the foremost in the world.

Also as the graph on the right indicates, aging will become a more serious problem from 2020 to 2040 in the countries such as South Korea, Thailand, Singapore, and China. Since 2014 in China, they have abated the one child policy which started in 1979 and it seems that it will be further diminished in the future. They are afraid of the declining productive population which is supporting the growing number of elderly people.

Concerning about these world situations, social, political, and economic policies, including "medical care, nursing care, and welfare" the aging rate in Japan continues to be the highest in the world. Therefore, Japan is becoming the focus in the world as the leading authority in caring for the aging.

## ジョイント学会を終えて、In closing the Joint Congress

2018年12月25日

新谷周三(しんたにしゅうぞう) 国際農村医学会(IARM)会長 日本農村医学会(JARM)理事長 JAとりで総合医療センター院長

さる10月10日~12日の3日間、2018ジョイントコングレスon Rural Medicine in東京を、有明TFTホールにて開催しました。国内からは、全国の厚生連病院の医師/看護師/コメデイカルや、大学の公衆衛生/環境衛生の研究者、海外からはスウエーデン、ギリシア、ドイツ、イタリア、セルビア、スイス (ILO)、ハンガリー、韓国、インドから農村地域(地方都市)において地域医療を実践している医師/看護師など1100余名が参加しました。

今回の学会では「高齢化・生産人口減少社会の中での地域医療in the world:日本では首都圏、地方都市、中山間地それぞれにおいて」をメインテーマに、2025年問題に代表される世界一高齢化が進む日本の地域医療について、将来同様の問題を抱える世界各国の医療人と討論しました。現在、日本の高齢化率は27.7%(平成30年度版高齢社会白書)はもちろん世界一、これほど急激に高齢化が進んで、しかも1億人を超える人口をかかえる国は世界中で日本しかありません。

この学会の中で、国内では全国の厚生連病院をその地域性から3つに分類し、「大都市圏/首都圏近郊」「地方中核都市」「中山間地」にあるそれぞれの病院のAgingへの取組みを発表いただきました。また、国際の方は、「高齢労働者や高齢農業従事者の持続可能な働き方とその対策」「各国の介護保険制度の現状と今後」「認知症をもつ高齢者への対策」など、Aging対策を中心に紹介いただきました。

今回、海外の参加者のためJapanese traditional eventを用意し、会長招宴では「日本相撲協会のSumo wrestler performance」、会員懇親会では「石見神楽(八岐大蛇) Iwami Kagura performance」を上演し好評を博しました。次期開催は、日本は2019年帯広市、国際は2020年ハンガリー(ペーチ)、2021年セルビア(ベオグラード)と決まりました。



89



第20回 国際農村医学会(IARM)学術総会 20<sup>th</sup> Congress of International Association of Rural Health and Medicine (IARM)

学会長 新谷周三 President, Shuzo Shintani, MD 日本農村医学会 理事長 JAとりで総合医療センター院長



第67回 一般社団法人 日本農村医学会(JARM)学術総会 67<sup>th</sup> Annual Meeting of Japanese Association of Rural Medicine (JARM)

学会長 羽田 明 President, Akira Hata, MD 日本農村医学会 副理事長 千葉大学大学院医学研究院・公衆衛生学教授